

IRATSUME

1997

No.21



但馬むしの会



◆◆ 目 次 ◆◆

永幡 嘉之：兵庫県北部におけるトホシカミキリ族の後食習性	1
永幡 嘉之：コルリクワガタの低山地からの追加記録	7
高橋 寿郎：兵庫県のハムシ研究史(3) (兵庫県甲虫相資料・330)	8
高橋 寿郎：兵庫県のハムシ(1) (兵庫県甲虫相資料・331)	16
岩見 裕介：マルエンマコガネを高砂市で採集	26
岩見 裕介：クロコノマチョウを高砂市で採集	26
上田 尚志：但馬各地で採集したカミキリムシ	27
上田 尚志：休耕田のハッチョウトンボ14年後の追跡調査	32
大東 康人：兵庫県の蝶／観察と知見 (I) (ホシチャバネセセリとミヤマチャバネセセリ)	34
佐藤 邦夫：兵庫県八鹿町で採集したタマムシ数種の記録	39
永幡 嘉之・秋田 勝己：兵庫県中部におけるオオキイロコガネの採集記録	40
日暮 卓志：浜坂町におけるシロオビトリノフンダマシの観察例	40

表紙：マイマイカブリ
足立義弘・画

兵庫県北部における トホシカミキリ族の後食習性

永幡 嘉之

I. はじめに

トホシカミキリ族 *Saperdini* は、カミキリムシ科フトカミキリ亜科に含まれる大きな族である。ハンノアカミキリやイッシキキモンカミキリをはじめとした美麗種が多く、一般に同好者の間では人気が高い。

この族のカミキリムシは、いずれも成虫が植物の生葉や生茎を後食する。その際、たとえば葉脈のみを線状に食べるなど、特徴のある食痕を植物上に残し、その習性は種によって異なるが、種内では安定している。

兵庫県北部からは、これまでに29種の採集記録がある。筆者は1991年から但馬地方においてカミキリムシ各種の分布を明らかにするために採集を行ってきたが、その過程でトホシカミキリ族の成虫の後食習性に興味をもつようになった。まだ各種の生態には不明な点が多く残されているが、これまでに得られた断片的な知見をまとめてみた。

なお、本文中に出てくる植物の和名・学名については、佐竹義輔ほか (1982・1989) に従った。同一種が文中に続けて何度も出てくる場合には、学名は省略した。

II. 各種の後食習性について

“後食”とは成虫の摂食活動を指す言葉で、幼生期の摂食と区別して使われる。以下に、兵庫県北部で確認した各種の成虫の食樹・食草および、食痕の形態について種ごとに記す。植物名で、() をつけていないものは、実際に後食していることを確認したもの、あるいはカミキリムシの種と食痕との対応関係がはっきりしているものである。植物をスピーキングしてカミキリムシを採集し、食痕は特定できなかったが明らかにその植物に集まっていたという場合には、植物名に() をつけて表中に加えた。葉上などで成虫を採集した例のうち、偶然性が高いと判断されるものについては、ここでは除外した。具体的な採集データは、これまでの筆者の報告にもれなく掲載してきたので、今回は省略した。

これまで写真の撮影や、後食を受けた植物の採集は積極的には行ってこなかったため、各種の食痕につい

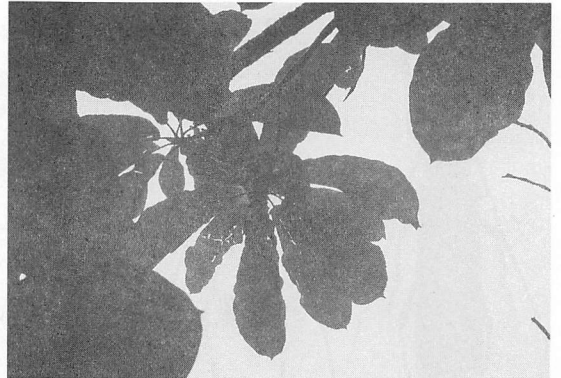


図1. フチグロヤツボシカミキリの食痕(1)

葉を表面から後食して穴をあけた状態を、下からすかして見たところ。中央付近の葉に、不定型の線状の穴が見える。

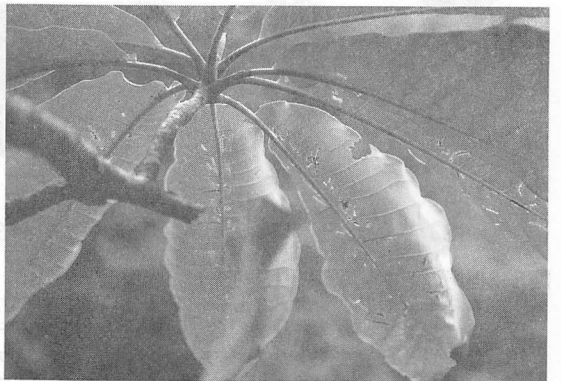


図2. フチグロヤツボシカミキリの食痕(2)

葉の裏面の葉脈を線状に後食した例。ところどころ、葉脈が黒化している部分が後食した跡である。

て写真あるいは図を示すことができない。表と裏から後食する例として、フチグロヤツボシカミキリの食痕の写真を図示しておく(図1・2)。

1. ムネモンヤツボシカミキリ *Saperda tetrastigma* (サルナシ *Actinidia arguta*) [マタタビ科]. シラホシカミキリと食痕が混じっているため正確に本種のもの

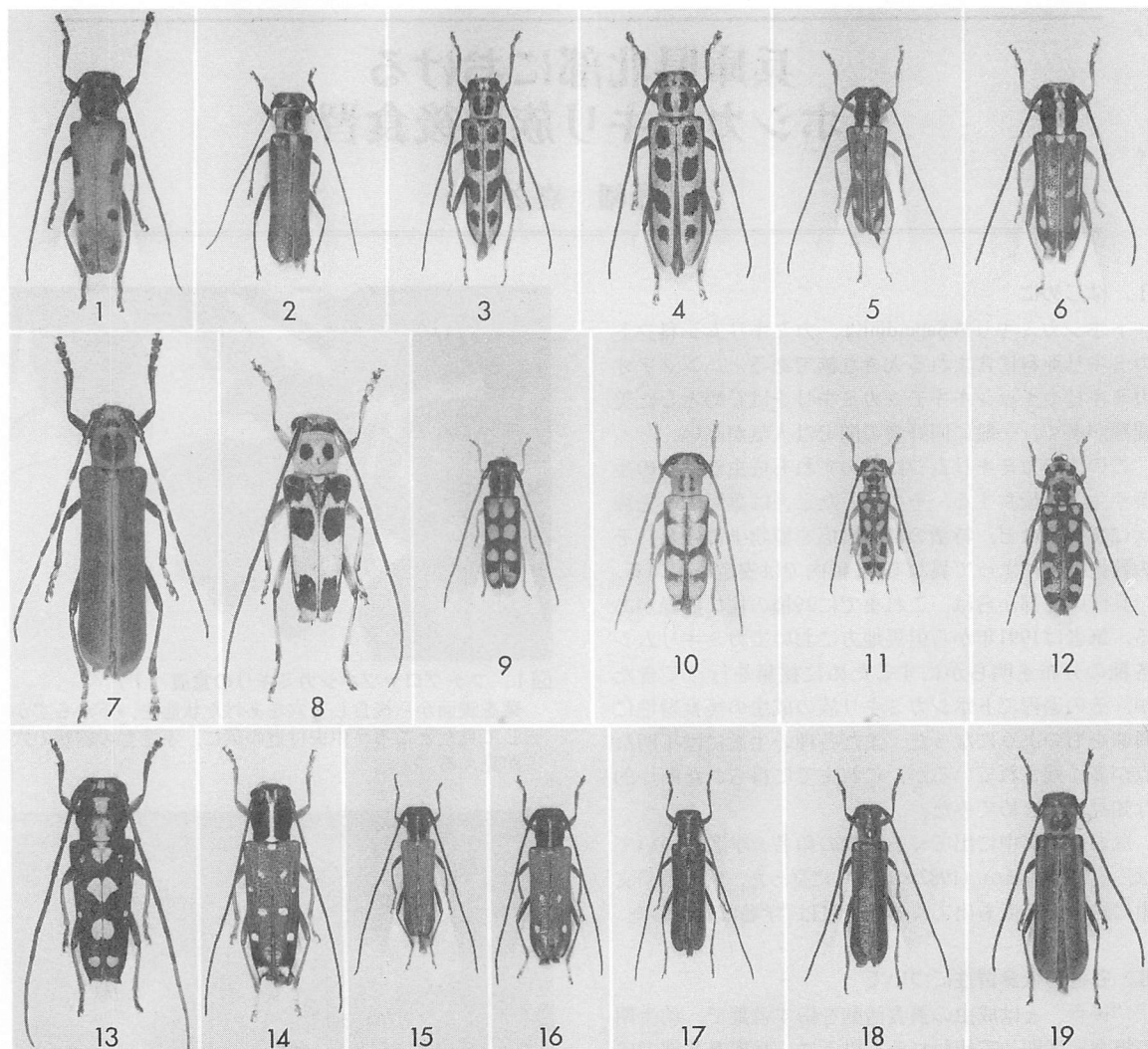


図3. 但馬のトホシカミキリ族(1)

1. ムネモンヤツボシカミキリ♂, 2. ブロイニングカミキリ♀, 3. フチグロヤツボシカミキリ♂, 4. 同♀,
5. ニセシラホシカミキリ♂, 6. 同♀, 7. ハンノカミキリ♂, 8. ラミーカミキリ♂, 9. キモンカミキリ♂,
10. オニグルミノキモンカミキリ♀, 11. ジュウニキボシカミキリ♂, 12. 同♀, 13. イッシキキモンカミキリ♂,
14. シラホシカミキリ♀, 15. シラホシキクスイカミキリ♂, 16. 同♀, 17. クロニセリンゴカミキリ♂, 18. チチ
ブニセリンゴカミキリ♂, 19. 同♀.

だけを判別することは難しいが、表面から葉脈以外の部分を、裏面から葉脈を後食しているようである。

2. ブロイニングカミキリ *Saperda ohbayashii*

(オニグルミ *Juglans mandshurica*・サワグルミ *Pterocarya rhoifolia*) [クルミ科]. キモンカミキリおよびオニグルミノキモンカミキリと後食対象が重なるので、それらの種との食痕の判別は難しいが、葉脈を裏面から線状に後食している。

3. フチグロヤツボシカミキリ *Pareutetrappa eximia*
ホオノキ *Magnolia obovata* [モクレン科]. 表面から葉脈以外の部分を不定形の線状に後食するほか、裏面から葉脈を線状に食べる。食痕は表面からつけられたものの方が多い。

4. ニセシラホシカミキリ *Pareutetrappa simulans*
サワフタギ *Symplocos chinensis* [ハイノキ科]. 他にナツツバキ *Stewartia pseudo-camellia*, ヤブツバキ

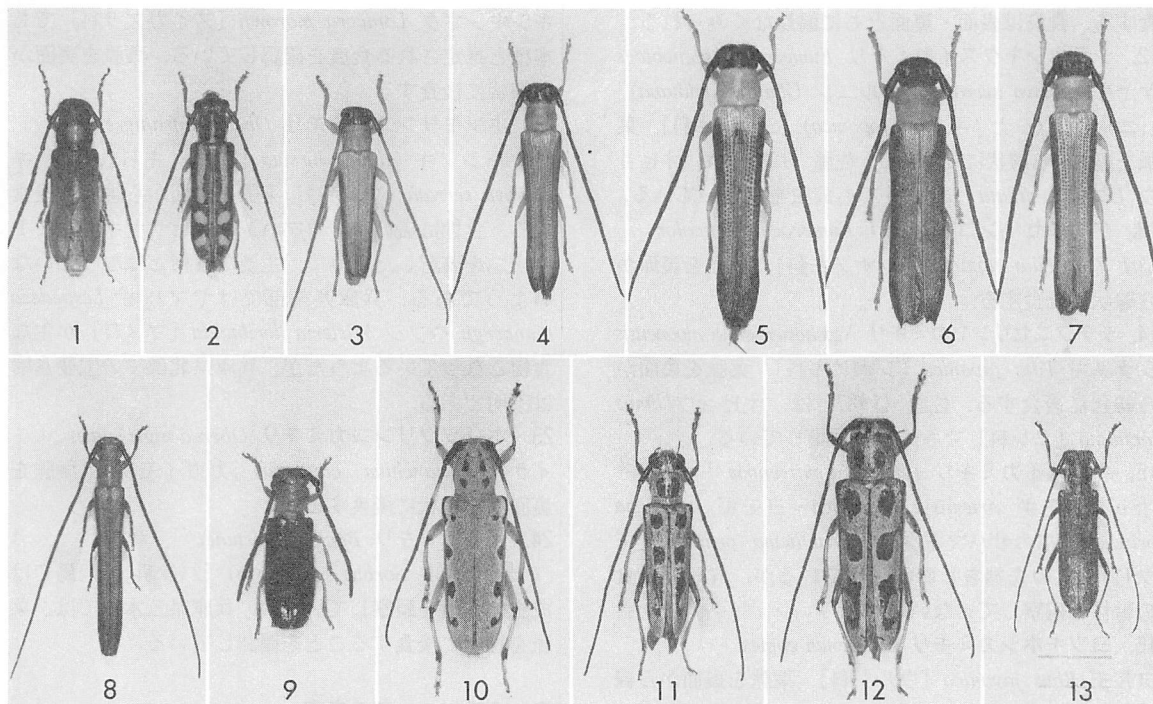


図4. 但馬のトホシカミキリ族 (2)

1. キクスイカミキリ♀, 2. ヨツキボシカミキリ♀, 3. ヘリグロリンゴカミキリ♂, 4. ヒメリンゴカミキリ♂, 5. リンゴカミキリ♂, 6. ソボリンゴカミキリ♂, 7. ニセリンゴカミキリ♀, 8. ホソツツリンゴカミキリ♂, 9. ルリカミキリ♀, 10. ヤツメカミキリ♀, 11. ハンノアオカミキリ♂, 12. 同♀, 13. セミスジニセリンゴカミキリ♀.

Camellia japonica [ツバキ科] でも本種のものと推定される食痕を確認した。岡山県・鳥取県では実際にナツツバキを後食しているのを確認している。葉の表面から葉脈以外の部分を、裏面から葉脈・葉柄を後食する。食痕は表面からつけられたものの方が多い。

5. ハンノカミキリ *Cagosima sanguinolenta*
ヤマハンノキ *Alnus hirsuta*, (シラカンバ *Betula platyphylla*; 植栽) [カバノキ科]. 葉の裏面から葉脈を線状に後食する。

6. ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei*
カラムシ *Boehmeria nipononivea* [イラクサ科], (シナノキ *Tilia japonica*) [シナノキ科]. 鳥取市ではムクゲ *Hibiscus syriacus*; 植栽 [アオイ科] でもよく成虫が見られる。葉の裏面から葉脈を線状に後食する。

7. キモンカミキリ *Menesia sulphurata*
サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* [クルミ科]. 裏面から葉脈を線状に後食する。

8. オニグルミノキモンカミキリ *Menesia flavotecta*
オニグルミ *Juglans mandshurica* [クルミ科]. 裏面か

ら葉脈を線状に後食する。

9. ジュウニキボシカミキリ *Paramenesia theaphia*
ハリギリ *Kalopanax pictus* [ウコギ科]. 表面から葉脈以外の部分を不定形の線状に、裏面から葉脈を線状に後食する。食痕は表面からつけられたものの方が多い。

10. イッシキキモンカミキリ *Glenea centroguttata*
マダマ *Morus alba*・ケダマ *Morus cathayana* [クワ科]. 裏面から葉脈を線状に後食する。おそらくヤマケダマ *Morus australis* も後食していると思われるが、これまでマダマとの区別点を認識していなかったため、今回は保留しておく。

11. シラホシカミキリ *Glenea relictata*
サルナシ *Actinidia arguta* [マタタビ科], リョウブ *Clethra barbinervis* [リョウブ科], ツルアジサイ *Hydrangea petiolaris* [ユキノシタ科], ガマズミ *Viburnum dilatatum* [スイカズラ科]. 他にゴマズミ *Viburnum sieboldii* [スイカズラ科] でも本種のものと推定される食痕を確認している。表面から葉脈以外の部分を不定形の線状に、また裏面から葉脈を線状に後

食する。食痕は表面・裏面ともに偏りなくみられる。

12. シラホシキクスイカミキリ *Eumecocera gleneoides*
ケヤキ *Zelkova serrata*・(ハルニレ *Ulmus davidiana*)

[ニレ科], (シナノキ *Tilia japonica*) [シナノキ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。佐藤 (1987) は, オヒョウ *Ulmus laciniata* [ニレ科] でも成虫を採集している。

13. クロニセリンゴカミキリ *Eumecocera unicolor*
シナノキ *Tilia japonica* [シナノキ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。

14. チチブニセリンゴカミキリ *Niponostenostola niponensis*
シナノキ *Tilia japonica* [シナノキ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。佐藤 (1987) は, オヒョウ *Ulmus laciniata* [ニレ科] でも成虫を採集している。

15. キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris*
オトコヨモギ *Artemisia japonica*・ヨモギ *Artemisia princeps*・ワカサハマギク *Dendranthema ornatum* [キク科]. 茎の先端をしておれさせているが, 詳しい後食の習性は観察していない。

16. ヨツキボシカミキリ *Epiglenea comes*
ヌルデ *Rhus javanica* [ウルシ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。

17. ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella*
フキ *Petasites japonicus*, ヨモギ *Artemisia princeps* [キク科]. 他にも数種のキク科植物で食痕を確認しているが, 花期以外で種名を確定しかねている。葉脈を裏面から線状に後食する。

18. ヒメリンゴカミキリ *Oberea hebesdens*
クロモジ *Lindera umbellata*・アブラチャン *Lindera praecox*・ダンコウバイ *Lindera obtusiloba*・タブノキ *Machilus thunbergii*・ヤブニツケイ *Cinnamomum japonicum*・シロダモ *Neolitsea sericea* [クスノキ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。

19. リンゴカミキリ *Oberea japonica*
ソメイヨシノ *Prunus yedoensis*; 植栽・オオシマザクラ *Prunus speciosa*; 植栽・(ナナカマド *Sorbus commixta*) [バラ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。

20. ソボリンゴカミキリ *Oberea sobosana*
レンゲツツジ *Rhododendron japonicum* [ツツジ科]. 他に, ミツバツツジ類 (ユキグニミツバツツジ *Rhododendron lagopus*と思われる)・ホンシャクナゲ *Rhododendron degranianum* [ツツジ科] でも本種のものでと推定される食痕を確認している。葉脈を裏面から線状に後食する。

21. ニセリンゴカミキリ *Oberea mixta*
スイカズラ *Lonicera japonica* [スイカズラ科]. 他に,

キンギンボク *Lonicera morowii* [スイカズラ科] でも本種と推定される食痕を確認している。葉脈を裏面から線状に後食する。

22. ホソキリンゴカミキリ *Oberea infranigrescens*
ヤマハンノキ *Alnus hirsuta* [カバノキ科], ケヤキ *Zelkova serrata* [ニレ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。食性は広いが, ヤマハンノキとケヤキは共に1例ずつを確認したのみで, 主要な食樹とはなっていないようである。兵庫県南部ではヤマハギ *Lespedeza thunbergii* やフジ *Wisteria floribunda* [マメ科] が主な食樹となっているようだが, 兵庫県北部での主要食樹は不明である。

23. ホソツツリンゴカミキリ *Oberea nigriventris*
イケマ *Cynanchum caudatum* [ガガイモ科]. 葉脈を裏面から線状に後食する。

24. ルリカミキリ *Bacchisa fortunei*
(ナナカマド *Sorbus commixta*) [バラ科]. 但馬では成虫の食痕を観察していない。兵庫県三木市では, 葉脈を線状に後食することを確認している。

Ⅲ. 食性についての考察

Ⅲ-1. 食べ方に関する問題

前項でまとめた各種の後食習性から, いくつかの法則性を見いだすことができる。

①まず, 葉の表面からも裏面からも後食するグループと, 裏面のみから後食するグループとに分けられる。表面から後食する種については, いずれも裏面からも後食し, 表面からのみ後食する種というのは見られなかった。

②次に, 後食する部分が葉脈か, 葉脈以外の部分かという点については, 裏面から後食する場合には葉脈を, 表面から後食する場合にはそれ以外の部分を選び, 今のところ例外はない。

③食痕の形状については②と同じく, 裏面から後食する場合には細い線状, 表面から後食する場合には不定形の線状で, 例外はなかった。

以上の①～③から, 以下のことがいえる。

④すべての種が裏面から後食するという習性を持っていることから, 裏面からの葉脈部分の後食がこのグループの持つ祖先的な習性であり, それに対して表面から葉脈以外の部分を後食する習性はそこから派生したものであると考えられる。

⑤後食の際につける食痕は, 基本的に線状である。裏面から食べる場合にはそれが葉脈と重なるのできれいな直線状となり, 表面からの場合は葉脈のような“直

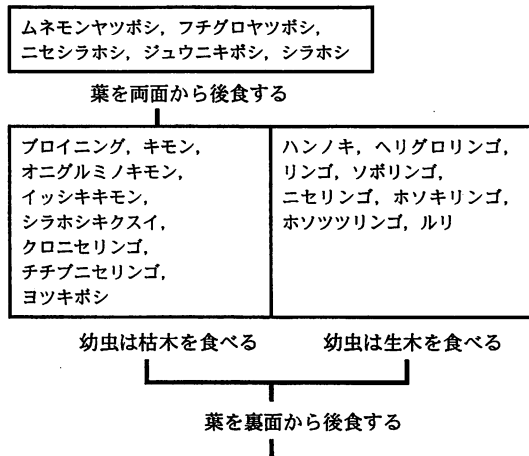


図5. 兵庫県北部におけるトホシカミキリ族の後食習性の模式図

線的な部分”が存在しないので、不定形の線状となる。直線状か不定形かはそれほど意味は持たないと考えられる。それは、葉の表面に不定形の食痕をつける種が、同一の葉の裏面には葉脈に沿って直線状の食痕を残していることから裏づけられる。

これらを整理して図にすると、図5のようになる。ただし、現状の分類体系に基づく系統関係はここでは考慮に入れていない。

他に、食べ方に関しては以下のような問題がある。

葉の表面から食べる場合には必ず葉に穴を空けるが、裏面から食べる場合には、穴を空ける場合と空けない場合とがある。ヨツキボシカミキリやクロニセリングカミキリなどの小型種では穴を空けていた例は観察したことがないが、リングカミキリ類やイッシキキモンカミキリなどでは穴が空いている場合と空いていない場合とがある。これは、必ずしも種によって固定した性質ではなく、成虫の体サイズや口器の大きさと、後食対象となる葉の厚さや葉脈の太さとの相関関係によって、その都度決定されるものではないかと推定している。

Ⅲ-2. 食性の平行現象について

観察した種も地域も限定されているが、数種において後食対象となる植物の選択性に平行現象が見られた。

シラホシキクスイカミキリ、クロニセリングカミキリ、チチブニセリングカミキリの3種は、いずれもシナノキ科 Tiliaceae とニレ科 Ulmaceae の樹木の生葉

を後食するという点で共通している。シナノキ科とニレ科の間に、この3種を含むグループが食性を拡大しやすい要因が存在すると考えられる。このような食性の平行現象は他にも鱗翅目をはじめとして多くの昆虫で知られている（福田ほか、1972）。

また、トホシカミキリ族の多くの種は、植物の同一の科の中でも後食対象となる種に選択性がみられる。イッシキキモンカミキリを例に挙げると、浜坂町城山において、マグワ、ケグワには多くの食痕が見られるが、同地に分布する他のクワ科の木本（イヌビワ *Ficus erecta*・ヒメコウゾ *Broussonetia kazinoki*・カジノキ *Broussonetia papyrifera*）には全く食痕が見られない。シラホシカミキリの場合では、後食対象が複数の科にまたがって存在し、食性は広いが、ユキノシタ科のツルアジサイは食べてもガクアジサイ *Hydrangea macrophylla* やヤマアジサイ *Hydrangea serrata* は全く後食していない（県外ではアジサイ類を食べる地方もあるようである）。このような選択性を各種において明らかにし、その制限要因を探っていけば、今後地域・対象種を拡大することにより、食性進化の推定に発展させることも可能かもしれない。

Ⅲ-3. 幼生期の食樹・食草と後食対象との関連性

トホシカミキリ族の幼虫は、植物の生きた組織を食べるものと、枯枝など死んだ組織を食べるものとに大別される。この性質は、ラミーカミキリなど一部の例外種を除けば、種によって安定している。まだ得られた知見が不十分であるが、今後幼虫の食性を明らかにし、成虫の食性と対比させ、これがどのような意味をもつことなのか検討していきたい。

①幼虫が生木・生草を食べる種

ハンノキカミキリ、ヘリグロリングカミキリ、キクスイカミキリ、リングカミキリ類各種、ルリカミキリなどであるが、これらはいずれも幼生期と成虫期で食べる植物が一致している。

②幼虫が枯木を食べる種

ヨツキボシカミキリのように幼虫・成虫で食べる植物が一致している種もあるが、チチブニセリングカミキリでは、幼虫はサワグルミ、成虫はシナノキやオヒョウであり、一致していない。幼虫が枯木を食べる種では、一般的に生木を食べる成虫期よりも食性が広がる傾向がある。上記①に挙げた種を除く全種について、幼虫は枯木食であると予想されるが、まだ兵庫県北部における幼生期の食樹を確認している種はわずかであり、各種の生態の解明が当面の課題である。

③幼虫が生木食か枯木食か不明な種

ラミーカミキリについて、これまでの文献では幼虫は生きた草本(カラムシなど)を食べるとされてきたが、兵庫県北部では確認していない。成虫は土場や伐採木にしばしば飛来し、また温泉町で採集した樹種不明の枯枝から成虫が羽化したことがある。生きた植物と枯枝とのどちらが基本的な食草になっているのかを確認することが今後の重要な課題である。但馬に進入してからそれほど年月を経っていない種であるが(谷角, 1988), 現在は食性を拡大しつつあるのかもしれない。幼生期の食性が成虫期よりも拡大していることは事実なので、現象としては上記②に類するものであろう。

Ⅳ. 生態が明らかでない種について

(1)成虫の食性が不明の種について

但馬で採集された記録がありながら、まだ筆者が成虫の食性を解明できていない種について解説する。

25. ヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota*

通常、成虫はサクラ類(特に植栽されたソメイヨシノ *Prunus yedoensis*)の古木の樹幹より発見される。兵庫県北部においても、これまでに知られている採集例はすべてサクラ類の樹幹もしくは土場におけるものであり、生葉を後食していた例は知られていない。サクラ類の生葉については、リンゴカミキリを採集する目的で6~7月にスィーピングや食痕探索をくり返しているが、本種を発見したことはなく、別の樹種が後食対象となっている可能性がある。

26. ハンノアオカミキリ *Eutetrappa chrysochloris*

普通種であるが、成虫を樹木の生葉で採集した記録は1例のみである。これは関宮町福定でシナノキ *Tilia japonica*の葉上から飛び立った個体を採集したものであるが、同地では個体数が少なくないにもかかわらず、その後何度もシナノキをスィーピングしても追加個体は得られず、周辺の地域でシナノキを探してもやはり採集できないので、成虫の主要な食樹は別に存在することが予想される。ハルニレ *Ulmus davidiana*やオヒョウ *Ulmus laciniata*にも注意しているが、成虫を発見したことはない。オヒョウの葉に残されている大型の食痕が本種のものかもしれないと考えている。

27. セミスジニセリンゴカミキリ *Eumecocera trivittata*

ブナ帯を中心に分布しており、前胸と上翅の斑紋は白色、上翅の灰白色の微毛は全体に一樣に現れる。氷ノ山の山陽側にあたる兵庫県波賀町では、ケヤキ *Zelkova serrata*の生葉をスィーピングすることによって採集されている(小倉滋氏, 私信)。兵庫県北部で

は、まだ成虫の食樹は解明できていない。ケヤキにはシラホシキクスイの食痕が多いが、それに混じって見逃していることも考えられる。

28. ジュウモンジニセリンゴカミキリ *Eumecocera minamii*

前種に似ているが、前胸の縦の条線や上翅が黄色や橙色を帯び、上翅の淡色微毛は側縁部に限られる。西日本各地から、上記の種名で報告されている。兵庫県北部では発表された記録があるかどうかは不明だが、村岡町や生野町で採集されている。前種と比べ、より低山地での記録が多い。兵庫県北部での成虫の食樹は不明だが、兵庫県佐用町ではコナラ *Quercus serrata*の生葉から得られている(阿部利一氏, 私信)。関宮町氷ノ山大平頭のブナ *Fagus crenata*に本族のカミキリムシ特有の食痕が多く認められたが、これが本種もしくは前種によるものではないかと考えている。

29. ヒゲナガシラホシカミキリ *Eumecocera argyrosticta*

採集記録そのものが少ない種である。やはり兵庫県北部では成虫の食性は不明である。

(2)後食主が特定できない食痕について

後食主が不明な本族のカミキリムシ特有の食痕を、いくつかの樹種で確認している。特にブナ[ブナ科](関宮町氷ノ山大平頭)、アズキナシ *Sorbus alnifolia*[バラ科](温泉町扇ノ山小ツツコ)、ケヤキ[ニレ科](浜坂町城山)などは、いずれも葉脈を裏面から線状に後食していたものであるが、食べたカミキリムシがどの種か特定できず、今後確認に力を入れたい。

Ⅴ. おわりに

兵庫県内で観察したトホシカミキリ族の成虫の後食習性についてまとめてみた。成虫の食性はかなり判明しているが、幼虫の食性には不明な点が多い。

トホシカミキリ族に含まれるカミキリムシは、全世界には非常に多くの種がいるようで、全体について食性を検討することなどとてもできそうにないが、日本国内に産する種だけでも、成虫と幼虫の食性、そして成虫の後食形態の3点を明らかにすることにより、食性進化の歴史を解明するための多くの情報を引き出すことができるのではないかと考えている。形態に基づいた現在の分類体系と、後食形態などの生態的特性とがどのような対応を示すのかという点にも興味がある。

成虫の食性については、日本国内でもいくつかの種で地域差が見られることが知られており、今後も各地で観察を続けていきたい。さしあたっての目標は、今回兵庫県北部のみで観察してきたことを、日本国内に範囲を広げて、少しずつ考察を進めていくことである。

参考文献

1. 小島圭三・渡辺弘之・中村慎吾 (1962) カミキリムシの後食, 比和科学博物館研究報告 5 : 16-23.
2. 福田晴夫ほか (1972) 幼虫の食性, 原色日本昆虫生態図鑑Ⅲチョウ編, 保育社, pp.40-41.
3. 谷角素彦 (1988) 但馬地方におけるラミーカミキリの記録, IRATSUME12 : 31-33.
4. 佐藤邦夫 (1987) 但馬地方のカミキリムシ, IRATSUME11 : 72-90.
5. 佐藤邦夫 (1988) 但馬地方のカミキリムシ (Ⅱ), IRATSUME12 : 24-30.
6. 佐藤邦夫 (1990) 但馬地方のカミキリムシ (Ⅲ), IRATSUME13-14 : 41-43.
7. 佐藤邦夫 (1996) 但馬地方のカミキリムシ (Ⅳ), IRATSUME20 : 87-92.
8. 永幡嘉之 (1993) 但馬のカミキリムシ1992, IRATSUME17 : 51-70.
9. 永幡嘉之 (1994) 但馬のカミキリムシ1993, IRATSUME18 : 16-42.
10. 永幡嘉之 (1996) 但馬のカミキリムシ第3報, IRATSUME20 : 46-55.
11. 佐竹義輔ほか (1982-1989) 日本の野生植物 草本編・木本編, 平凡社, 東京.

コルリクワガタの 低山地からの追加記録

永幡 嘉之

コルリクワガタ *Platycerus acticolis* は, 西日本では山地性の種であるが, 但馬地方ではやや標高の低い地域 (標高350~800m) にも分布することが知られている。このたび, 温泉町の低山地で本種の新産地を発見したので報告する。

1♂, 美方郡温泉町桧尾 (標高340m), 1-I-1997, 永幡嘉之採集

桧尾では集落の周辺にブナの二次林が広がっている。イヌブナ・アカガシの混じる林で, 細い朽ち木からいくつかの産卵マークを発見したほか, 同行した川元裕氏が幼虫を数頭採集した。採集できた成虫は上記の1頭のみであった。同地ではブナの芽吹きは4月上旬に始まり, 中旬には大部分のブナが葉を広げるので, 本種の出現期も4月中旬頃ではないかと予想される。

当日, 桧尾を訪れた後で温泉町高山 (標高400m) に向かい, ここでもコルリクワガタを探索した。高山

では集落の背後に社叢林としてブナの林が存在し, この林は胸高直径が80cmを超える木も多い大径林であるが, 本種の産卵マークは全く発見することができなかった。数時間の調査にすぎないが, この林には生息していない可能性がある。桧尾と高山は大空山 (標高575m) の東西に位置し, 直線距離で約2kmと, 距離的には近い場所である。

コルリクワガタは, 但馬では標高が低くなると成虫が小型化するという現象が顕著にみられ (これについてはもう少しサンプル数を増やしてから発表する予定である), おそらく低地では夏季の高温が幼虫の成長を阻害するのではないかと考えている。低標高地にもブナの自生する地域は多いが, ブナがあれば本種も産するというものではなく, 本種の分布はブナの分布よりもさらに局地的になることが考えられる。今後, 温泉町千谷・鐘尾, 浜坂町中小屋, 香住町余部・三川などの標高の低いブナ林でも本種の分布を調査したいと考えている。

調査に同行された山口県岩国市の川元裕氏に御礼申し上げます。

参考文献

- 永幡嘉之 (1993) 来日岳でコルリクワガタを採集, IRATSUME17:78.
佐藤邦夫・永幡嘉之 (1994) 兵庫県におけるルリクワガタ属の分布について, IRATSUME18:52.

兵庫県のハムシ研究史(3) (兵庫県甲虫相資料・330)

高橋 寿郎

1975. 高橋 匡. 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報). 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 B5. 66p.

但馬地域産昆虫標本目録で, 採集データがついている. 甲虫類は626種が記録されており, ハムシ科の記録は87種.

1975. 高橋 匡. 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報). 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 B5. 24p.

前出の続報. 甲虫類は新たに増えた6科を含む128種を追加. ハムシ科は13種含まれている.

1975. 倉本康司. 氷上郡におけるキベリハムシの分布. *Natura*(32):50-58.

1975. Takizawa, H. A Review of the approximatus-Group of *Cryptocephalus* (Coleoptera, Chrysomelidae) in Japan, with Description of a New Species. *Kontyu* 43(4):422-436.

日本産ハムシ類中のバラルリツツハムシ類の分類学的論文. この中で *Cryptocephalus aeneoblites* なる新種の記載が行われている. この新種は, 兵庫県下の六甲山にも産することが記録されている.

1975. Suzuki, S., Yamada, K., Teranishi, M. and Tadauchi, O. Preliminary Study on the Geographical Distribution of Color Form in *Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim) (Coleoptera, Chrysomelidae). *Kontyu* 43(4):437-445.

ヨモギハムシの色彩型(ドウガネ系と青色系)の分布について論じたもの. 宝塚市における分布にもふれられており, ドウガネ系が大変少ないとある(全般に兵庫県下ではドウガネ系は少ないと思う).

1976. 河野 哲・藤本 清・山口福男. サングジュハムシ(*Pyrrhalta annulicornis* Baly)の発生と被害について. 日本応用動物昆虫学会中国支部会報(18):32-36.

兵庫県農業試験場園芸部花木園(明石市北王子町)のサングジュにサングジュハムシ成虫が発生した状況

の報告.

1976. 木村三郎. 書写山でキベリハムシ発生. てんとうむし 1(3):2.

1976. 奥谷禎一. 広域基幹林道予定地域自然環境調査報告書 IV. 昆虫類調査pp.57-73. (兵庫県農林部治山課刊).

播但基幹林道の主な調査地: 峰山高原, 砥峯高原, 福地溪谷, 須留ヶ峰. 主として遊磨正秀氏と奥谷禎一博士の調査で, 甲虫の同定は高橋寿郎が担当. ハムシ科は12種を記録.

播磨中部高原広域基幹林道の主な調査地: 加美町三谷, 市原, 鳥羽, 笠形山. 主として高橋寿郎の調査. この地域での甲虫は56科491種で, ハムシ科は74種を記録. 報告は和名のみ.

以上を主体に, 奥谷禎一博士がまとめられ, 報告されたもの.

1976. 高橋寿郎. 淡路島の甲虫相. *Parnassius*(16):3-9.

淡路島産甲虫60科447種を科別に概説. ハムシ科は94種.

1976. 堀田 久. 先山の甲虫相(I). *Parnassius*(16):11-32.

甲虫類30科171種の記録で, ハムシ科は46種が記録されている.

1976. 仲井哲郎. 氷上郡のキベリハムシ. 新・兵庫の自然 p.188. (のじぎく文庫).

1976. 高橋 匡. 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報). 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 B5.20p.

甲虫類は42科138種が記録されており, ハムシ科は6種が記録されている.

1977. 伊丹市立博物館 昆陽池生物目録. B5.35p.

甲虫類は23科60種が記録されており、ハムシ科は7種が記録されている。

1977. 広池 昇・奈良隆史・木戸和伸. 三熊山の昆虫について. *Parnassius*(17):5-28.

甲虫類については30科76種が記録され、ハムシ科は7種含まれている。

1977. 高橋寿郎. 三濃山(兵庫県)の甲虫相. *MDK NEWS*27(77):2-6.

55科440種を科別に概説。ハムシ科は107種と大変多い。

1978. 堀田 久. 淡路島産甲虫類採集記録. *Parnassius* (18):4-16.

25科69種が記録されており、ハムシ科は13種が記録されている。

1978. 高橋寿郎. 兵庫県神埼郡大河内町川上～砥ノ峯地区の甲虫相. 大河内地点自然環境実態調査報告書: 56-61. (株)新日本技術コンサルタント刊.

47科353種の甲虫を記録。ハムシ科は64種を記録。

1978. 岩田久二雄. 昆虫を見つめて五十年(I, II). (朝日新聞社刊).

セモンジンガサハムシ(神戸市逢山峡), ヨモギカメノコハムシ(篠山町)(I: 61-69)とツツジコバハムシ(篠山町), ヨツボシナガツツハムシ(神戸市唐櫃)(II: 47-60)の生態についての概説がある。

1978. 堀田 久. 淡路島産甲虫類採集記録(II). *Parnassius*(19):10-14.

20科44種が記録されており、ハムシ科は6種が記録されている。

1978. 仲田元亮. 能勢の昆虫 I. B5.405p. (自刊. 単行本)

能勢地域(兵庫県・大阪府にまたがっている地域)で著者がこつこつ調査・採集した結果(約12年間)をまとめ、自刊として出版されたもので大変な労作である。同定などに若干問題はありと思われるが、種ごとの詳しい採集記録がついており大変貴重なものである(ただこれだけ詳しいデータを発表するなら、採集頭数が入っていればその種の生息状況が分かり、さらに優れた資料となったことと思う)。ともあれ、これだ

けのものをまとめて出版することは、好きならばこそできたことだろう。

甲虫は85科1035種、ハムシ科は100種が記録されているが、前述したように全部が兵庫県内での記録ではない。

1978. 高橋 匡. 豊岡高等学校昆虫標本目録(第5報). 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 B5.14p.

昭和52,53年(1977,1978年)度の但馬地区での調査結果をまとめられたもので、139種が記録されている。甲虫目は52種が記録されているが、そのうちの11種は兵庫県からは初めて記録される種である。ハムシ科は2種の記録がある。

1979. 高橋寿郎. 藍那地区自然環境調査“甲虫類” p.26-33. 兵庫県自然保護協会鈴蘭支部刊. B5.60p.

48科297種を記録。科別に説明した。ハムシ科は45種。

1979. 仲田元亮. 「能勢の昆虫」その後(2). きべりはむし7(2):16-28.

41科90種の記録で、ハムシ科は17種が記録されている。

1979. 鈴木邦雄・櫻井一彦. 兵庫県淡路島におけるヨモギハムシニ色彩型の地理的分布. *New Ent.* 28 (3/4):78-80.

淡路島ではアオグロ型が非常に多く、中央構造線の北側においてはアオグロ型が優勢という瀬戸内沿岸地帯と同様の傾向を示す。

1980. 都市緑地研究所. 神戸市道高速道路2号線生態系調査業務(その1, 2)報告書(妙法寺の昆虫). B5.130p.

(株)ホームサービス社が受託した妙法寺地域の昆虫相調査で、筆者も若干調査を手助けした。甲虫類は47科226種、ハムシ科は21種が記録されている。

1980. 長谷川 洋. ハムシ2種の分布について. *昆虫と自然*15(8):45.

ユリクビナガハムシの兵庫県での記録がある。

1980. 高橋 匡. 但馬地方昆虫目録(予報第4報). *IRATSUME*(4):28-41.

但馬地方のハムシ科11亜科182種の記録。

1980. 磯野昌弘. キイロナガツツハムシの分布. 昆虫と自然12(14):16.

美方郡浜坂町での記録がある.

1980. 高橋寿郎. 県下の注目すべき甲虫. 鳥と自然16:8-14.

ベリークビナガハムシ, キベリハムシについて解説している.

1981. 高橋寿郎. 兵庫県のナガツツハムシ. きべりはむし9(1):6-9.

芦屋市の奥池ならびにイモリ谷にて採集された20頭の標本によってネクイハムシの新種カツラネクイハムシ *Donacia katsurai* Kimoto が記載された (p.24, f.2). タイプ標本は以下のとおりである.

Holotype: Okuike, Ashiya City, Hyogo Pref. 18-V-1980, K. Katsura leg.

Paratypes: 5exs., same data as the holotype.

Paratypes: 14exs., Imoridani, alt. 530m. Okuyama-cho, Ashiya City, Hyogo Pref. 26-V-1980, K. Harusawa leg.

1981. 野尻湖昆虫グループ. 日本産ネクイハムシ亜科に関する研究 1. 1979~1980年に得られた分布と生活上の知見. 大阪市立自然史博物館研究報告(34):27-46.

兵庫県下での採集記録として, イネネクイハムシ *Donacia provosti*, ガガブタネクイハムシ *D. lenzi*, キンイロネクイハムシ *D. japana*, カツラネクイハムシ *D. katsurai* の4種の産地が示されている.

1981. 高橋寿郎. 兵庫県のクビナガハムシ. てんとうむし(7):106-110.

兵庫県産クビナガハムシ亜科4属19種の分布を中心に報告した.

1982. 高橋寿郎. 神戸市須磨区妙法寺地域の甲虫相. 兵庫生物8(3):153-155.

ハムシ科は21種を記録.

1982. 高橋寿郎. 兵庫県産 *Cryptocephalus* 属ハムシ4種の分布について. きべりはむし10(1):29-34.

キベリクロツツハムシ, キボシツツハムシ, オオクロスジツツハムシ, ジュウシホシツツハムシの4種について, 県下での分布を解説した.

1982. 高橋寿郎. 宍粟郡波賀町水谷の甲虫. きべりは

むし10(1):37-41.

29科96種の甲虫を記録, ハムシ科は11種.

1982. 高橋寿郎. 兵庫県のトゲハムシ・カメノコハムシ. IRATSUME(6):46-56.

2亜科19種を記録した.

1982. Suzuki, K. Geographical Distribution of two color forms of *Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim) (Coleoptera, Chrysomelidae) in the Tokai district, central Honshu, Japan. New Ent.31(2):1-10.

淡路島でのヨモギハムシ二色彩型の分布状況についての解説がある.

1982. 高橋寿郎. カツラネクイハムシ神戸市北部芦谷溪谷に産す. きべりはむし10(2):27-28.

1982. 仲田元亮. 増補改訂版能勢の昆虫 甲虫の部 上巻A5.453p. 下巻A5.508p. (自刊).

記録された種は上巻で48科613種, 下巻では45科699種, 計1312種となっている(内2種はシノニムである). 大阪からのみという新記録種を除くと, 1149種になる(もっとも, 大阪産とか兵庫産といってもこれは行政上の区分によってであってあまり意味がないので, このような区分で眺めることは感心しないが, 便宜的にこの区分で扱っておく). 同定について若干の疑問種もあるし, わかり難いグループでは専門家に同定してもらった方がよいものもある. 科の中での配列も若干気になる点もある. 個々の種での記録も, 年代順でなく産地別にまとめた方がわかりやすい気がする. せっかくなのであるから, 採集頭数も必要なものは入れてほしかった. 学名についても若干の問題点はある. 兵庫県産ハムシは125種が記録されている.

1982. 河上仁之. 猪名川生物目録, 昆虫. 地域研究いたみ(12):133-135.

昆虫33科87種の記録. 桑津橋から軍行橋付近地域での調査である. 甲虫は9科25種が記録されており, ハムシ科は3種の記録. 普通種が多い.

1984. 河上仁之. 伊丹市昆虫目録(1). 伊丹の自然(1):22-32.

伊丹市内の昆虫相として, 39科202種が記録されている. ハムシ科20種の記録が含まれている.

1984. Borowiec, L. Zoogeographical study on Donaciinae of the World. Bull. Ent. Pologne 53: 433- 518, 83figs.

世界のネクイハムシ亜科に関する動物地理学的研究で、兵庫県産で記載されたカツラネクイハムシなども含まれている。

なお、この論文については金沢至・春沢圭太郎両氏による要約がある（うんころがし No.20:15-18, No.21:13-51, 1985）。

1985. 高橋寿郎. 開国と同時にやってきたキベリハムシ. 昆虫と自然20(1):13-15.

1985. 高橋寿郎. 兵庫県産 2 種のハムシの記録. きべりはむし13(1):22-23.

オオサルハムシ, テントウノミハムシの記録.

1985. Komiya, Y. Studies on the Trichochrysea-species of Japan, Ryukyu Archipelago, Taiwan and Korea (Coleoptera, Chrysomelidae, Eumolpinae). Elytra12(2):11-25.

Trichochrysea japona Mots. トビサルハムシの朝来郡栃原の記録がある。

1985. 奥谷禎一. 大岡山自然環境調査報告. B5.50p. (園田学園刊) (ref.p.5,42-44).

城崎郡日高町大岡山での調査. ハムシ科は12種が記録されている。

1985. 磯野昌弘. 但馬地方西部のハムシ. IRATSUME (8/9):85-97.

主として浜坂町, 扇ノ山, 杉ヶ沢, 兎和野などのハムシ141種を記録。

1985. 足立義弘. 大家町加保坂でカツラネクイハムシを採集. IRATSUME(8/9):151.

1985. 河上仁之. 伊丹市昆虫目録 (2). 伊丹の自然 (2):27-32.

甲虫は 9 科16種が記録されており, ハムシ科は 2 種の記録が含まれている。

1985. パシフィックコンサルタンツ (株). (仮称) 押部谷パブリックゴルフクラブ建設事業動物調査報告書. B5.91p.

神戸市西区押部谷町木津での昆虫相調査で, 72科218

種を記録している. ハムシ科は23種 (担当は高橋寿郎)。

1986. 野尻湖昆虫グループ. アトラス日本のネクイハムシ化石同定への手引きー. B5.182p. 4col.pls.

ナクイハムシ, イネネクイハムシ, カツラネクイハムシ, キンイロネクイハムシ, ツヤネクイハムシ, オオネクイハムシ, スゲハムシの 7 種について, 兵庫県下の記録が多くある。

1986. 高橋寿郎. ワモンナガハムシ六甲山にて採集. きべりはむし14(2):39.

1986. 高橋寿郎. スゲクビボソハムシ神戸市内で採集. きべりはむし14(2):42.

1986. 高橋寿郎. ネクイハムシ美囊郡吉川町に多産. きべりはむし14(2):43.

1986. 河上仁之. 伊丹市昆虫目録 (2). 伊丹の自然 (3):21-26.

ハムシ科 3 種の記録あり。

1987. 久保田正秀. キイロネクイハムシは絶滅したのか. 日本の生物1(3):49-52.

宝塚市での記録を詳しく解説。

1987. 衣笠弘直. ネクイハムシの記録. うんころがし (27):15-17,19.

カツラネクイハムシ, オオネクイハムシ, スゲハムシの県下での記録あり。

1987. 高橋寿郎. 兵庫県のツツハムシ. Parnassius(32):3-11.

兵庫県産19種のツツハムシの分布を中心にした記録。

1987. 河上仁之. 野鳥の島の生物調査報告 (1). IV 昆虫 (昆陽池). 伊丹の自然(5):23-25.

ハムシ科 6 種の記録あり. ただし, 和名のみ。

1988. 高橋寿郎. 兵庫県のツツハムシ (2). きべりはむし16(1):1-4.

1988. 高橋寿郎. ヨツボシナガツツハムシ六甲山系逢山峡に産す. きべりはむし16(1):20-24.

1988. Isono, M. Differentiation in Life History Pattern and Oviposition Behavior, and Thelytoky in *Demotina* and *Hyperaxis* Beetles (Coleoptera, Chrysomelidae) in Western Japan. Kontyu 56(2):402-409.

神戸産の材料が用いられている。

1988. 高橋寿郎. イネネクイハムシ小野市山田町で採集. きべりはむし16(2):51-52.

1988. 高橋寿郎. ナガツツハムシ2種の記録. きべりはむし16(2):54.

ヨツボシナガツツハムシ, クロオビツツハムシについての記録.

1989. 西 隆広. 芦屋市におけるヨツボシナガツツハムシの記録. きべりはむし17(1):14-15.

1989. 高橋寿郎. 兵庫県のクビボソビハムシ. きべりはむし17(2):41-42.

1989. 成田行弘. ネクイハムシ類調査報告 (1988年). Donacist(3):7-8.

神崎郡大河内町砥ノ峯高原でのチュウゴクオオミズクサハムシの採集記録.

1989. 西田雅昭. 生物部採集の記録. ハムシ科. 三木中学校生物部採集報告書: 18-30.

採集地は三木市, 宍粟郡赤西溪谷で, ハムシ科51種が記録されている. ただし, 和名のみ.

1990. 高橋寿郎. ユリクビナガハムシについて. きべりはむし18(1):9-12.

1990. 永幡嘉之. ユリクビナガハムシの採集例. きべりはむし18(1):12-13.

1990. 高橋寿郎. 西田雅昭氏採集三木市産数種のハムシの記録. きべりはむし18(1):14-16.

1990. 新家 勝. 武庫川の昆虫目録. 伊丹の自然(8):1-15.

ハムシ科5種の記録がある.

1990. Isono, M. A Revision of the Genus *Demotina* (Coleoptera, Chrysomelidae) from Japan, the Ryukyus,

Taiwan and Korea, I. Jpn. J. Ent. 58(2):375-382.

p.379-381に川西市・神戸市産のものをパラタイプとした *Demotina sguamosa* Isono アラゲサルハムシの新種記載あり.

1990. Isono, M. A Revision of the Genus *Demotina* (Coleoptera, Chrysomelidae) from Japan, the Ryukyus, Taiwan and Korea, II. Jpn. J. Ent. 58(3):541-554.

兵庫県産では次の4種の記録がある. マダラアラゲサルハムシ *Demotina fasciculata*, フタモンアラゲサルハムシ *D. bipunctata*, チビカサハラハムシ *D. decorata*, カサハラハムシ *D. modesta*.

1990. 高橋寿郎. 兵庫県産珍稀な3種のクビボソハムシの記録. きべりはむし18(2):37-40.

アワクビボソハムシ, トゲアシクビボソハムシ, キベリクビボソハムシについての記録.

1991. 森 和夫. ユリクビナガハムシの採集記録について. きべりはむし19(1):28-29.

1991. 高橋寿郎. ユリクビナガハムシ三木市大村にて発見. きべりはむし19(1):29.

1991. 高橋寿郎. キベリハムシ氷上郡山南町五ヶ野にて採集. きべりはむし19(1):30.

1991. 高橋寿郎. クロオビツツハムシ神戸市内に産す. きべりはむし19(1):31.

1991. 八木 剛. ネクイハムシ類の産卵習性及び卵形態について. Donacist(4):9-14.

使用材料のうち, 兵庫県産5種のネクイハムシがある(ただし, 採集データはついていない).

1992. 真野育三. 夏期研修会(笠形山)報告. 兵庫生物ニュース(9):47.

笠形山で1992年8月6~7日, 兵庫県生物学会の夏期研修会が開催された際の採集品(夜間採集も含む)で, 甲虫は22種が記録されており, 和名だけであるが地域が地域だけにおもしろいものが採集されている. ハムシ科はクロオビツツハムシ1種だけが記録されているにすぎない.

1992. 相坂耕作. キベリハムシ山南町で多産. 姫昆サ

ロンニュース(87):2.

1992. 高橋寿郎. 兵庫県下でのキンイロネクイハムシの分布. きべりはむし20(2):41-44.

1992. 高橋寿郎. クロオビツツハムシの新産地. きべりはむし20(2):55.

神戸市西区寺谷, 神崎郡笠形山での記録.

1992. 高橋寿郎. 兵庫・神戸を原産地とするハムシ類. Crude(37):9-24.

32種のハムシについて分布を主体に記録.

1993. 河上仁之. 武庫川河原の昆虫・昭和40年代の昆陽池の昆虫. 伊丹の自然第1集:127-129 (伊丹市立博物館刊).

概説であって, 具体的に示されているのはハムシで2種である.

1993. 小田中 健. 宝塚の昆虫IV. 甲虫目(Ⅱ). 168p. (宝塚市教育委員会刊).

宝塚のハムシとしてNo.640-No.721に82種が記録されている. 各種ごとに写真で示し, 生態, 形態の記述と詳しい産地の記録がある.

1993. 高橋寿郎. オオサルハムシ神戸市内で採集. きべりはむし21(2):44-48.

神戸市北区八多町屏風にて採集.

1993. 森 和夫. ムギヒサゴトビハムシの食草について. きべりはむし21(2):50.

宝塚市境野, 下佐曾利での観察.

1993. 森 和夫. ユリクビナガハムシ神戸市押谷町に産する. きべりはむし21(2):51.

1993. 高橋寿郎. 東播磨の甲虫相(1). きべりはむし21(2):37-43.

東播磨地域ではハムシ141種が記録できていると総数で示したが, 個々の種についての解説はしていない.

1994. 藤多文雄. ヘリグロタマトビハムシの採集例. 月刊むし(279):16.

淡路島での記録の紹介あり.

1994. 小田中 健. 宝塚の甲虫(補遺). 宝塚の昆虫Ⅶ:337-370.

ハムシ科はカタボシクビナガハムシ, ジュウシホシツツハムシ, ヒメキベリトゲトゲ, ジンガサハムシ, ムネアカサルハムシ, ドウガネサルハムシ, テントウノミハムシ, ウスグロチビカミナリハムシの8種が追加されている. カタボシクビナガハムシは兵庫県初記録種である.

1994. 木元新作・滝沢春雄. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説(東海大学出版会・東京).

キベリハムシが次のように図説, 解説されている. p.27, pl.22, f.4. p.149, 235, 309, 393. pl.114, f.4, p.465-466.

p.437篠山におけるクロボシツツハムシの生活史が述べられている.

1994. 高橋寿郎. 淡路島の甲虫相. Parnassius(40):1-6.

淡路島からは101種のハムシが記録されていると総数は示したが, 個々の種についての解説はない.

1994. 高橋寿郎. 西播磨の甲虫相. 兵庫生物10(5):179-181.

西播磨地域に生息する注目すべき甲虫類として, ハムシ類からはズグロアカハムシのみ, 音水溪谷が県下唯一の産地として紹介されている.

1994. 高橋寿郎. 東播磨の甲虫相(2). きべりはむし22(1):1-8.

東播磨地域に生息する注目すべきハムシ類として, キンイロネクイハムシ, カツラネクイハムシ, トゲアシクビボソハムシ, ユリクビナガハムシ, アワクビボソハムシ, オオサルハムシ, ムツキボシハムシ, キベリハムシの8種を解説している.

1994. 高橋寿郎. 六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍の甲虫相. きべりはむし22(2):35-45.

六甲山系からハムシは193種が記録されている. キベリハムシについては詳しく解説.

1994. 建設省河川治水課監修, 財団法人リバーフロント整備センター編集. 平成4年度河川水辺の国勢調査年鑑. 陸上昆虫類等調査編. B5.1328pp. (山海堂. 東京).

平成4年度に, 国が直轄管理する全国109の1級河川のうち, 48水系で陸上昆虫類調査が実施された. そのうち, 平成4年度から5年度に調査が継続している

河川を除く、42水系について結果のとりまとめを行ったものが本書である。調査者がどのレベルの人達であるのか、同定はどのような方がされたのかなどが明確にされておらず、学名は使用されず和名だけの羅列になっている点や、注目種の解説、昆虫相の解説などもほとんどなく、採集データも一切ないことから、この記録を無条件に受け入れるのには、若干抵抗を感じる。もう少し責任ある報告書としてまとめてほしかった。

兵庫県からは猪名川、加古川、揖保川流域の調査が行われた。

○ 猪名川

平成4年度の現地調査は、夏期（7月16日～8月29日）、秋期（10月13日～10月17日）、春期（平成5年5月15日～5月26日）の3回、4地点において実施。調査地点はヨモギ、セイタカアワダチソウなどの草地在大半を占めて、一部にハリエンジュ、ヤナギなどの点在する程度の単調な植生。この地域でハムシは18種記録されているが、大部分が草原に見られる普通種ばかりで、トホシクビボソハムシがやや珍しい種である。

○ 加古川

平成4年度の現地調査は、春期（6月26日～6月28日）、夏期（8月7日～8月10日）、秋期（10月1日～10月9日）の3回、4地点において実施。草地在主体となっているので、草地性の昆虫が多く記録されている。

ハムシ科は16種記録されている。この中にセスジクビボソハムシがある。学名がなく詳しい採集データもないので同定が正しいのかどうか不安であるが、現時点で兵庫県下で2番目の記録地点になる。1992年8月採集となっている。1992年8月7日～10日の調査地点は、小野市粟生町、黍田町、加古川市升田、友沢の4地点であるが、珍しい種であり、再調査の必要がある。オオアシナガトビハムシも、県下では扇ノ山以外では初めての記録である。

○ 揖保川

平成4年度の現地調査は、春期（6月27日～6月29日）、夏期（8月3日～8月6日）、秋期（10月3日～10月6日）の3回、5地点において実施。ハムシ科は21種記録されている。大体においてヨシ、クズ、ヤナギなどの河川区域内の植生条件を反映し、草地を主な生息地としている昆虫類が多く出現している。特に海岸線近くの地域にゴミシシ類を主とした甲虫類全般の多くの種が見られたとある。ハムシではウスグロスジツツハムシ *Cryptocephalus fulvus* が県下での記録がほとんど知られていない種である。1992年8月の採集とあるが、調査地点は一宮町名畑、山崎町矢原、新宮町下

笹、揖保川町市場、姫路市余部であり、どこで採集されたのかデータがないのが残念である。その他のハムシは普通に見られる種ばかりである。

1995. (社) ひめじ花と緑の協会. ハムシのなまきベリハムシ. 姫路の昆虫Ⅱ: 17.

執筆者名がないが、姫路昆虫同好会の方が分担している。ハムシは3種のみカラーで図説されており、キベリハムシはこの地域では書写山にわずかに見られるだけと解説されている。

1995. 高橋 匡. 森の昆虫概観と特徴—氷上郡昆虫目録. 丹波の自然: 133-138. (のじぎく文庫).

表題のごとく、氷上郡昆虫目録を中心にこの地域の昆虫相が述べられているが、ハムシについてはキベリハムシについて詳しく解説されている。

1995. 秋山美文・日暮卓志. 山陰東部のハムシの記録. すかしば(41/42): 15-18.

氷ノ山・扇ノ山・美方郡村岡町本谷奥で採集されたハムシ4種の記録がある(ルイスクビナガハムシ、ラルリツツハムシ、ムネアカサルハムシ、トビサルハムシ)。

1995. 林 靖彦ほか. 1989年度雨石山に於ける昆虫相調査報告書. KASUGA(11): 20-21 (大阪昆虫同好会連絡誌).

多紀郡雨石山にて1年間、鶏肉トラップで誘引した昆虫類を調べると同時に、雨石山の昆虫相をまとめたもので、48科433種が記録されている。兵庫県甲虫類として初記録と考えられるもの12科21種が含まれている。ハムシ科は42種が記録されている。特に問題になるような種は見られないが、もっと時間をかけて調べるとまだまだいそうである(この調査の参加者は11名)。

1995. 藤富正明. 私版 淡路の昆虫リスト(2) 鞘翅目. Parnassius(42): 3-4.

80種の淡路島産甲虫がアイウエオ順に配列されている。ハムシ科は4種記録されている。

1995. 東 正雄・東 良雄. 宝塚の昆虫Ⅰ～Ⅶの補遺(Ⅱ). 兵庫生物11(1): 21-24.

サンゴジュハムシ、ムネアカウスイロハムシの宝塚市での新しい記録。

1995. 高橋寿郎. クロオビツツハムシの兵庫県下の分布. きべりはむし23(1):27-30.

兵庫県下でのクロオビツツハムシの分布状況を地図で示し解説した.

1995. 高橋寿郎. ルイスクビナガハムシの分布. きべりはむし23(2):29-33.

兵庫県下でのルイスクビナガハムシの分布を述べると同時に, 全国的な見地での分布を解説.

1995. 高橋寿郎. クロオビツツハムシの兵庫県からの古い記録. きべりはむし23(2):34.

1995. 高橋寿郎. 兵庫県甲虫相の変遷. 鳥と自然(79):5-13.

兵庫・神戸を代表する甲虫?種としての解説をしており, ハムシについてはルイスジンガサハムシ, キベリハムシについて説明している.

1995. 高橋寿郎. 兵庫・神戸を原産地とする甲虫. きべりはむし23(3):1-43(ref.p.26-27, 41-42).

兵庫・神戸を原産地とするハムシ22+11種, 計33種を記録.

1995. 高橋寿郎. キベリハムシに関する文献目録・追加. きべりはむし23(3):68-69.

1995. 高橋寿郎. 兵庫県のハムシ研究史 (I). IRATSUME(19):61-69.

戦前の研究史をまとめた.

1996. 奥谷禎一. 帰化動物. 宝塚の自然(10):3-5.

キベリハムシについて解説あり.

1996. 森 和夫. 北摂周辺のトゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシ. きべりはむし24(1):19-23.

従来, 少ない種とされていたトゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシが, 共に川西市を中心とした北摂地域でイボクサを食草としてかなり多く産することがわかり, その生態と共に詳しく発表.

1996. 永幡嘉之. ルイスクビナガハムシの採集記録. きべりはむし24(1):49-50.

1996. 高橋寿郎. 兵庫県のハムシ研究史 (2). IRATSUME(20):18-23.

1948~1974年の県下のハムシに関する研究の歴史を解説した.

1996. 上田尚志. 但馬におけるハムシの記録. IRATSUME(20):27-30.

氷ノ山, 扇ノ山を含む但馬地方東部を中心としたハムシ類83種の記録であり, 詳しいデータがついていて大変有益である.

以上, 1996年までに発表された兵庫県のハムシに関する文献に基づいて, 兵庫県産ハムシ類研究の経緯を述べた.

《 IRATSUME の原稿募集 》

IRATSUME 22号(1998年5月発行予定)の原稿を募集します.

フィールドノートや標本箱に眠ったままになっている記録,

今シーズンの最新成果などを, どんどんお寄せください.

各昆虫のデータのまとめや生態観察記はもちろん, 採集記や短報也大歓迎です.

また, 思い出の虫や懐かしの採集地, 今後の抱負といったような内容でも結構ですから,

ぜひご投稿ください. バリエティーに富んだ誌面にしたいと思います.

なお, 原稿執筆に際しては, 必ず投稿規定をお読みください.

原稿の締切は, 1998年2月末です.

送付先・問合先は, 〒567 茨木市新中条町5-36-102 谷角素彦まで.

兵庫県のハムシ(1) (兵庫県甲虫相資料・331)

高橋 寿郎

昭和17年(1942年)7月24日、神戸市兵庫区烏原貯水池畔で初めてキベリハムシを3頭採集した。そのことからキベリハムシを含むハムシに興味を抱き、兵庫県にどのようなハムシがいるのか調べてやろうと取り組んで、本年(1996年)で54年になる。その間、第2次大戦に筆者は第一次学徒出陣として現役入隊(広島)し、中支戦線に参加、カザック共和国(ロシア)で抑留生活を終えて帰国。その後は会社勤務で時間的制約があり、十分な調査はできていない。

定年退職後は県自然保護指導員を拝命、同時に兵庫県環境科学技術センター(現ひょうご環境創造協会)で主として播磨地域を中心に環境調査(昆虫部門の調査)をさせて頂いた(1984~1993年に109回。他にも奥谷禎一博士の調査を50回以上手伝った)。しかしながら、兵庫県には広い未調査地がまだまだ多くある。とにかく手許に相当数のデータが集まっており、これを是非発表して残しておきたいと、まとめを始めるものである。長いので継続発表になるかと思うが、完結するまでどれくらいかかるものか見当もつかない。なんとか完了にこぎつけたと考えて発表させて頂く。

筆者のハムシ類調査にあたり、いろいろとご教示やご指導を頂いたり、貴重な論文を恵みいただいた諸先生方に厚く御礼申し上げたい。

戦前から台湾におられた中條道夫博士には同定、ご教示、論文別刷りの恵与を頂き、戦後は香川大学の研究室や自宅にお伺いしてご指導頂き、またキベリハムシの採集にご招待したり(大倉正文氏にも手伝って頂いた)いろいろな面でお世話になった。

戦後は中根猛彦博士、木元新作博士、大野正男教授、滝沢春雄博士(ABC順)にもいろいろとご指導やご教示を頂き、貴重な論文の別刷りを多数頂いている。さらには、ハムシのみならず環境調査を中心に、奥谷禎一博士にも格別のお世話になっている。以上の皆様には厚く御礼申し上げる。また、そのほかにもお世話になった方が多数いる。いちいちご芳名を記さないが、これらの方々に対しても心からお礼を申し上げさせて頂く。

凡例

1. 本報告のハムシ類の配列、学名、和名は原則として木元新作・滝沢春雄著『日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(東海大学出版会、1994)によった。

2. 各種についての産地はできるだけ詳しくと思ったが、あまりにも膨大になるので次のように示した。

[] は文献からの記録で“兵庫県ハムシ研究史”(1995-1997)を見て頂きたい。() の中は筆者の採集品であるが、採集個体数の多いものは1例のみ示し、他はetc.としてある。

3. 筆者採集の標本は、1992年前半までの採集品は兵庫県立人と自然の博物館に保管されている。他は現在、筆者保管。

Family Chrysomelidae ハムシ科

Subfamily Megalopodinae カタピロハムシ亜科

Genus *Colobaspis* Fairmaire, 1894 カタピロハムシ属

1. *Colobaspis japonica* (Baly, 1873) カタピロハムシ
本種について筆者は、全国的視野に立つての分布を述べている(きべりはむし24(2):32-34, 1996)ので、ここでは解説を省略する。

産地: 神戸市山の街(1♂, 29-IV-1959)、丹生山(1♂, 5-V-1956)、多紀郡城南町(篠山町)竜造寺[山本, 1953]、城北村(篠山町)藤岡泉[奥谷, 1954]。

Subfamily Synetinae ホソハムシ亜科

Genus *Syneta* Eschscholtz, 1835 ホソハムシ属

2. *Syneta adamsi* Baly, 1877 カバノキハムシ

Baly (1877) によりTsushima, Japan, Vlodimir Bay, Manchuria産で記載された種である。かつて中條道夫博士によって詳しく図説されたことがある(1955, 1956, 1959)。食草はカンバ類、シデ類、ブナなどが知られている。分布は北海道、本州、四国、九州、対馬、サハリン、シベリア、中国などである。兵庫県下にも広く産し、個体数もかなり多い。

産地：川辺郡猪名川町槻並（2 exs., 4-V-1979）。神戸市北区谷上（14♂ 5 ♀, 7-V-1961）。多可郡加美町鳥羽（1 ex., 1-V-1975 etc.）。加美町三谷（1 ex., 24-V-1975）。朝来郡須留ヶ峯（1 ex., 9-VI-1975, M. Yuma leg.）。神崎郡大河内町砥ノ峯830m [木元・日浦, 1971]（2 exs., 7-V-1977 etc.）。揖保郡新宮町福原（1 ex., 15-V-1992）。相生市三濃山（2 exs., 3-V-1969, etc.）宍粟郡一宮町福地溪谷（2 exs., 3-VI-1975, M. Yuma leg.）。波賀町音水（3 exs., 21-V-1979）。多紀郡篠山町小金岳 [山本, 1953, 1958]。篠山町雨石山 [林ほか, 1995]。氷上郡柏原町（1♂ 1 ♀, 10-V-1953）。豊岡市三開山 [上田, 1996]。城崎郡三川山 [高橋, 1975]。養父郡関宮町氷ノ山（1 ex., VII-1955）[高橋, 1975；上田, 1996]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻, 1963；辻・岸田, 1972；上田, 1996]。村岡町兎和野 [磯野, 1985]。

Subfamily Zeugophorinae モモブトハムシ亜科
Genus *Zeugophora* Kunz, 1818 モモブトハムシ属
Subgenus *Pedrillia* Westwood, 1864

3. *Zeugophora (Pedrillia) annulata* (Baly, 1873)
ワモンナガハムシ
Baly (1873) により *Pedrillia annulata* として記載された。使用標本はHab.-Japan. Collected by Mr. Moorとあり、わずかに1個体のみを所有すると記されている。

その後、中條道夫博士の研究発表があり、1937年に甲虫同好会の機関誌「日本の甲虫」が創刊され、その第1図版 (Fig.3) に美しいカラー図が発表された (p.3)。産地の中に伯耆大山が示されているので、この美しいハムシをどうしても兵庫県下で見つけたいものだと発奮したものである。

分布は日本全土、南千島、朝鮮半島、東シベリアとなっている。食草はマユミ、ニシキギ、クロヅルなどが知られている。

斑紋に変化があり、forma *biguttata* (Kraatz, 1899), forma *inannulata* Chûjô, 1959, forma *melanaria* Chûjô, 1959といった記載もある。

兵庫県下には広く分布していると考えられるが、記録はそれほど多くない。どちらかといえば山地性のようである。

産地：宝塚市香合新田 [水野, 1993]。神戸市六甲山（1 ex., 12-V-1986）。摩耶山（1 ex., 11-VI-1967, K. Mori leg.）。神崎郡笠形山 [森田, 1989]。宍粟郡波賀町音水（1 ex., 4-V-1972）。朝来郡和田山町宝山（1

ex., 16-VI-1994）。城崎郡日高町金山峠 [高橋, 1975]。養父郡関宮町氷ノ山（2 exs., 27-V-1956）[辻, 1972]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻, 1963；辻・岸田, 1972]。浜坂町宇都野神社、城山、観音山 [磯野, 1985]。

4. *Zeugophora (Pedrillia) bicolor* (Kraatz, 1879)

ムナグロナガハムシ

Kraatz (1879) により、アムールから *Pedrillia bicolor* として記載された。日本からは Jacoby (1885) によって“Wadatoge, Fukushima”産で *Pedrillia nigricollis* と記載されたものがこの種にあたる。分布は日本全土、朝鮮半島、シベリアで、食草はマユミとある。

兵庫県下からはほとんど記録が知られていない。
産地：川西市山原 [仲田, 1970, 1978]。黒川 [仲田, 1982]。

Subfamily Donaciinae ネクイハムシ亜科
Genus *Macrolea* Samouelle, 1819 キイロネクイハムシ属

5. *Macrolea mutica japona* (Jacoby, 1885)

キイロネクイハムシ

G. Lewisが2度目に来日した1880年4月に、神奈川県横浜市の豊頭寺の池の中から採集した1個体に基づいて、Jacoby (1885) が *Haemonia japona* の学名で記載した種である。

その後、湯浅啓温博士 (1926) がカエルの腹から出てきたのを報告したのが、記載以後初めての報告である。それから千葉県、神奈川県、山梨県、大阪府東大阪市、兵庫県宝塚市、西宮市、福岡県福岡市香椎、沖縄県と記録が出たが、宝塚市を除けば1頭もしくは化石からの上翅など部分的な出現で、現在真に日本に分布しているのかどうか大変興味のあるハムシである。このあたりのことは、久保田正秀氏 (1987) が詳しく解説している。また「アトラス日本のネクイハムシ」(1985) には、このハムシの形態・生態・分布などが詳しく説明されている。

兵庫県宝塚市では1ヶ所の池（ひょうたん池）で、1949～1950年に30頭くらい採集されているようであるが、それ以降は全く記録が見られない（筆者も故後藤光男氏にこの池に案内してもらったことはあるが、採集はできなかった。池は現存しているようであるが、当時と状況が変化しているらしいことを故大倉正文氏から1990年頃に直接お聞きしたことがある）。

西宮市で1940年頃、黒佐和義博士によって採集された記録があるが、詳しいことはわからない。

とにかく全国的に見ても最近は全く記録が現れないハムシであり、興味のある種である。

なお、木元博士(1986)は、中央アジアやヨーロッパなどに分布している *Macroplea mutica* (Fabricius, 1792) の亜種になると発表している。

産地：宝塚市〔柴内・中畔, 1950；後藤, 1955；Kimoto, 1964；久保田, 1987；水野, 1993〕。西宮市〔久保田, 1987〕。

Genus *Donacia* Fabricius, 1775 ミズクサハムシ亜科
Subgenus *Cyphogaster* Goecke, 1934

6. *Donacia* (*Cyphogaster*) *lenzi* Schoenfeldt, 1888

ネクイハムシ

本種はLenz (Lenz Tuiscon は1874~1880年, 神戸に在留したドイツ商人で, 神戸で甲虫の採集をした。この種小名も氏に献名されたもの) がKobeで採集した標本に基づき, Schoenfeldt (1888) が命名した。Lewis (1893) は, Baly (1873) が長崎・兵庫産で *Donacia aeraria* Balyと記載した種は, 中国産 *D. aeraria* と間違えたもので, この両者は明らかに異なり, Schoenfeldt が記載したKobe産がこの種にあたるとした。

そして, 神戸や京都, 大阪の池にも極めて多数見ることができ, water-lilyが食草であると記している。

分布は広く, 日本全土のみならず朝鮮半島, 中国, 台湾, フィリピンが知られている。

兵庫県下でも広く分布しているようで, 特に播磨地域では非常に多く見ることができる。

食草はジュンサイ, ヒルムシロが知られている。

産地：川辺郡猪名川町上原, 京尾谷池alt. 110m [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985]。宝塚市大原野 [細井, 1987]。波豆, 下佐曾利 [水野, 1993；森, 1991]。西宮市甲東園 [野尻湖昆虫グループ, 1985]。芦屋市奥山町イモリ谷, 奥池貯水池 [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985]。Hiogo [Schoenfeldt, 1888; Jacobson, 1892; Jacoby et Clavareau, 1904; Clavareau, 1913; Goecke, 1934, 1935]。Kobe [Lewis, 1893; Baly, 1873; Schoenfeldt, 1887]。神戸市北区谷上 (2♀, 1-VI-1986 etc.), 八多町屏風 (7 exs., 10-VI-1993)。三田市大阪峠下の池alt. 330m [野尻湖昆虫グループ, 1985]。三木市口吉川町笹原 (2♀, 11-IX-1986)。美囊郡吉川町市野瀬 (8♂10♀, 2-VIII-1985), 吉川町奥山 (14♂16♀, 5-VI-1986 etc.)。加東郡杜町畑 [八木, 1991]。小野市大上 (5♂4♀, 8-VII-1987 etc.)。加西市青野ヶ原逆池alt. 85m., 平池alt. 85m [野尻湖昆虫グループ,

1981, 1985]。

7. *Donacia* (*Cyphogaster*) *provostii* Fairmaire, 1885

イネネクイハムシ

本種は北京産でFairmaire (1885) が記載した種である。中條 (1934) は“従来本種は *Donacia aeraria*, *Donacia lenzi* と混同して取り扱われていたが, 触角や腿節, 体色その他で明らかに違った種である”として本種を解説した。さらに“本種は本州, 九州では普通種であり, 幼虫はイネの根を食害することがよく知られている”とある。また, 本種は伊丹市原田処理場遺跡 (弥生時代) から上翅が1点発見され (宮武, 1994), 新潟県柏崎市鯨波のナウマンゾウ発掘で約3万年前の旧石器時代の地層からも産出している。縄文時代以降, 遺体として各地の遺跡および現在の水田の土層まで非常に多く産出している (桂, 1994) ということは, 本種はかなり古い時代からいたハムシということになる。戦前はイネの害虫として知られていた種で, その被害は相当大きかったようである。最近では農業の影響や湿田から乾田への土地改良が進み, 水田ではほとんど見られないようになり, 平地では水田近辺のため池や用水路のヒルムシロやヒツジグサ, ハスなどの浮葉植物上に多く見られ, 山地では池のジュンサイ, コウホネなどの浮葉植物を食べて生活して, 必ず水面に浮葉した植物の葉裏に産卵する。幼虫は孵化後泥の中に潜り, そこにあるいろいろな植物の根を食害することから“ネクイハムシ”と名付けられた。必ずしもイネに依存した生活史をもったものではないといわれている。ネクイハムシに比べて, 湿地の上が林などで覆われない, より開けたところを好んで生活していて平地に多く, さらにため池など, より人工的な環境にも多く見られるといわれている。兵庫県下で見た場合, ネクイハムシは多く見られるのにイネネクイハムシの方が少なく, 水田の消失や開発による減少が急速に進んでいるのかもしれない。

産地：津名郡北淡町育波 [Ikuwa Awaji] [野尻湖昆虫グループ, 1985] (この標本は宝塚昆虫館に保管されていたとき筆者も検したが, かなり悪い状態の標本であったと記憶している。現在, 大阪市立自然史博物館に保管されていると思われる)。伊丹市 [河上, 1984], 原田遺跡 [宮武, 1994]。Hiogo [Chûjô, 1934 (1 sp. 7-VI-1881, G. Lewis Col., Goecke, 1934]。明石 [野尻湖昆虫グループ, 1985]。小野市大上 (1♂, 8-VII-1987)。豊岡市寿町 [高橋, 1975]。美方郡美方町貫田島地池alt. 560m, 村岡町粗岡, 粗大池alt. 490m, 温泉町春來 (用

水路) alt. 405m [野尻湖昆虫グループ, 1985].

8. *Donacia (Donacia) japana* Chûjô et Goecke, 1956

キンイロネクイハムシ

本種は中條道夫博士とハンス＝ゲッケ (H. Goecke) 氏が、京都の深泥池産 (Holotype, Allotype) はそれぞれ 1 ♂ 1 ♀ で岸井尚博士採集, Paratypes は 58 exs. + 4 exs. で中根猛彦博士採集) で記載された種である (1956).

原記載にはヨーロッパとシベリアに分布している *Donacia (Donacia) aquatica* (Linnaeus) に大変よく似ており、中條博士が 1934 年に京都から *Donacia aquatica* (nec Linnaeus) として報告したものと、1955 年に後藤光男氏が *Donacia* sp. として原色で図示したものは、共にこの種にあたとされている。

日本では本州の北端部から北九州まで知られているが、四国からは未知で、西南日本からはほとんど知られていない。国外では朝鮮半島、旧満州東部にも分布している。

成虫の食害植物はミクリ、ヤマトミクリ、ヒメミクリ、カンガレイなどで、訪花植物はミクリ、ヤマトミクリ、カサスゲ、ミヤマシラスゲなど。

幼虫の食草はミクリ属の 1 種、産卵植物はヤマトミクリ、ヒメミクリ、カサスゲ、ミヤマシラスゲなどが知られている。

原産地の深泥池には大変多くいたようで、記載当時京都におられた故石田裕氏が採集された標本を、多数頂いた記憶がある。

兵庫県下でも広く分布していると思われるが、記録としては多くない。

産地：宝塚市大原野北方の池 [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985, 細井, 1987], 下佐曾利 (2 ♂ 2 ♀, 27-V-1991, K. Mori leg.) [森, 1991], 大原野, 下佐曾利 [水野, 1993], 三木市大村 [1 ex., 2-V-1987, Y. Nagahata leg.], 美濃郡吉川町 (1 ♀, 21-V-1992), 加東郡社町畑 [八木, 1991], 養父郡関宮町氷ノ山山麓大久保 alt. 700m (8 ♂ 4 ♀, 24-VII-1958)。

9. *Donacia (Donacia) katsurai* Kimoto, 1981

カツラネクイハムシ

本種は、芦屋市の奥池 (桂孝次郎氏採集), イモリ谷 (春沢圭太郎氏採集) で採集した標本に基づいて、木元 (1981) により記載された。

原記載には、*Donacia nitidior* (Nakane, 1963) ツヤネクイハムシに似ていて、寄主植物はヤチカワズスゲとある。その後、野尻湖昆虫グループの調査で、成虫の

食害植物はタチスゲ、ヤチカワズスゲ、サヤヌカグサの 1 種、成虫の訪花植物としてヤチカワズスゲ、アゼスゲ、イグサが報告されている。

分布は原記載では本州のみであったが、現在のところ日本固有種で西限は大分県、東限は愛知県である。近畿地方では兵庫県以外の産地が知られていない。

兵庫県では阪神～播磨地方に広く分布しているように思われる。

産地：芦屋市奥池, イモリ谷 [Kimoto, 1981; 野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985], 神戸市北区芦谷川湿地 alt. 400m (8 ♂ 2 ♀, 5-VI-1982 etc.), 北区山田町金剛童子山鰻ノ手池北側湿地 alt. 450m (2 ♂ 4 ♀, 1-VI-1986 etc.) [野尻湖昆虫グループ, 1985], 加東郡社町畑 [八木, 1991], 小野市青野ヶ原逆池 alt. 85m, 平池 alt. 85m, 皿池 alt. 85m [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985; 衣笠, 1987], 神崎郡大河内町砥ノ峰高原 alt. 830m [野尻湖昆虫グループ, 1985], 赤穂郡上郡町富満 [八木, 1991], 養父郡大屋町加保坂 [足立, 1985]。

10. *Donacia (Donacia) nitidior* (Nakane, 1963)

ツヤネクイハムシ

中根 (1963) が、京都大悲山で採集した標本で記載した。カツラネクイハムシとは分布域が似ているが、同一地点での混雑例は少なく、異所的分布傾向がある。兵庫県を除く近畿地方では本種のみが知られ、福井県にも分布する。日本固有種である。

訪花植物はカサスゲ、アゼスゲ、ゴウソ、オニスゲが知られている。アゼスゲ葉上で交尾がみられたが、葉の食害例をみていないとある。

丘陵地、山地の林をともなう小湿地や廃田に多い。生息環境は、ハッチョウトンボのそれによく似ているとのこと。

兵庫県下の産地は 1 ヶ所しか知られていないが、おそらく西播磨地方に分布していると思われる。

産地：宍粟郡千種町木地山峰越峠の湿地 alt. 1020m [野尻湖昆虫グループ, 1985]。

Genus *Plateumaris* C. G. Thomson, 1866

オオミズクサハムシ属

11. *Plateumaris constricticollis chugokuensis* Tominaga et Katsura, 1984 チュウゴクオオミズクサハムシ

原名亜種 *Plateumaris constricticollis* (Jacoby, 1885) エゾオオミズクサハムシは、Jacoby により Lake at Junsai 産で *Donacia constricticollis* Jacoby と記載された。主に

東北地方（原記載の北海道はよくわからない産地である）に分布しているようである。富永・桂（1984）は、富山県、兵庫県・岡山県に産するものをそれぞれ亜種として記載した。このチュウゴクオオネクイハムシは、岡山県苫田郡上斎原村新古屋、岡山県立森林公園と兵庫県神崎郡大河内町砥ノ峯湿原で採集されたものに基づいて記載されたもので、兵庫県では現在砥ノ峯と養父郡大屋町加保坂が産地として知られている。

野尻湖昆虫グループ（1985）によれば、“チュウゴクオオミズクサハムシは、ハンノキ類のみられる湿原のスゲ群落に多く、このスゲ属の他に、ミヤマシラスゲやイグサ属の1種を訪花し花粉を食する。ただし花期を過ぎたスゲ群落にも多数みられ、交尾して食害している”とある。

産地：神崎郡大河内町砥ノ峯湿原alt.830m [富永・桂, 1984; 野尻湖昆虫グループ, 1985; 衣笠, 1987; 成田, 1989; 桂, 1994]。養父郡大屋町加保坂 [八木, 1991]。

12. *Plateumaris sericea* (Linnaeus, 1768) スゲハムシ

本種はヨーロッパ産で記載され、ヨーロッパのみならず中央アジア、シベリア、モンゴル、中国、朝鮮半島、サハリン、千島と旧北区に広く分布し、日本でも北海道、本州、九州に分布している。

日本では西進南下するにしたがい山地性になる。九州では福岡県と大分県で知られているが、他にも分布しているであろう。四国からの記録は現在知られていない。

兵庫県下でも中央部から北の地域に分布している（淡路島の記録があるが、若干疑問がある）。

食草としてはガマ、スゲなどがあげられている。

中根（1963）が上高地産で記載した*Plateumaris nipponensis* Nakane, 1963は、本種のシノニムとなる。

産地：津名郡北淡町育波（Ikuwa, Awaji, Hyogo）[野尻湖昆虫グループ, 1985]。宍粟郡波賀町若杉峠の湿地alt. 940~950m, 千種町木地山alt.850m, 同峰越峠の湿地alt.1020m [野尻湖昆虫グループ, 1985]。千種町鍋ヶ谷の上流の一湿地 [衣笠, 1989]。城崎郡日高町阿瀬溪谷 [上田, 1996]。養父郡関宮町氷ノ山山麓大久保alt.700m (13♂8♀, 24-VII-1955), 関宮町鉢伏高原 [八木, 1991; 上田, 1996]。美方郡村岡町鉢北高原 [八木, 1991; 上田, 1996]。村岡町兎野高原, 銚子谷 [上田, 1996]。

Subfamily Criocerinae クビボソハムシ亜科

Genus *Oulema* Des Gozis, 1886 イネクビボソハムシ属

大洋州を除く世界各地に広く分布し、日本には5種を産する。兵庫県下からは4種が知られているが、1種を除けば珍しい種ばかりのように思われる。

13. *Oulema atosuturalis* (Pic, 1923)

セスジクビボソハムシ

この種はBaly（1873）によって長崎を産地に*Lema downsi*として記録され、これが日本で最初の記録になるかと思う。桑山覚博士もこの学名で九州、インドを分布地として記録し、1951年には、台湾、琉球を産地としている（Jacoby（1908）は*Lema downsi*としてBengal; Bombay; Malader Coastを記録している）。

ところで、この学名のハムシはPic（1921）がアンナンから記載した*Lema atosuturalis* Picと同一種であるとされた（Chûjô et Kimoto, 1960; Kimoto, 1961, 1964. もっともChûjô et Kimotoでは*Hapsodolema*属の種とされている）。そして現在では、*Oulema atosuturalis* (Pic)が用いられている。

黄褐色、上翅会合部は黒色、触角は暗褐色、脚は黄褐色、前胸背板の基部は明瞭な点刻をまばらに装う。体長3.0~3.5mm。食草はメヒシバなどである。分布は本州、四国、沖ノ島、九州、対馬、屋久島、沖縄本島、石垣島、西表島、与那国島、中国南部、台湾、インドシナと広く、どちらかといえば南の方に広く産する種のようなのである。

兵庫県下では長い間、筆者の記録した氷ノ山の産が知られていただけであったが、最近小野市、加古川市からの記録が見られた。したがって、県の南部海岸沿いにも分布しているようである。

産地：小野市、加古川市 [リバーフロント, 1994]。養父郡関宮町氷ノ山（2 exs., 24-VII-1955）。

14. *Oulema dilutipes* (Fairmaire, 1885)

アワクビボソハムシ

本種の原因産地は、中国北京である（Red. d' Ent. 7, p.149, 1885）。日本からの初記録は、中條道夫・木元新作両博士によってされた（1960, 属名は*Hapsidolema*。青森、群馬、岐阜、兵庫、高知、福岡県のもの）。食草はアワである。

分布は本州、四国、九州、朝鮮半島、中国である。

兵庫県下の記録について、筆者は詳しく発表したことがある（1990）。県下の記録は、それ以後聞かない。産地：神戸市西区伊川谷町前開（1 ex., 28-IX-1988）。氷上郡遠阪村（青垣町）[山本, 1953, 1958]。柏原町 [中條・木元, 1960]。美方郡浜坂町味原 [磯野, 1985]。

15. *Oulema oryzae* (Kuwayama, 1931)

イネクビボソハムシ

原記載は桑山覚博士(1931)により“稲の大害虫イネドロムシ(泥負虫)は精査の結果新種と認め、ここに *Lema oryzae* と命名せり”として記載された。タイプなどの指定は全くない。この種については、それ以後桑山博士による詳しい生態をも含めた研究結果の発表がある(1932, 1935)。

1893年, Lewisは *Lema melanopa* Linnaeusの学名で新潟県Shiwojiritogeで1881年7月に5頭得たと記録しているが、これは本種のことである。イネの害虫として、その生態についても多くの文献がある(1959)。

すでに本種の分布について桑山博士は、兵庫県下では但馬地方にのみ分布するとしている(1932, 第二報, p.86)。現在でも記録のあるのは但馬地方が主体である(氷上郡の黒井, 幸世は厳密には丹波地方になる)。県の南の方にも分布しているのではないかと推測している。わりと美しいハムシである。

食草は、イネ、カモガヤ、マコモなど。イネの害虫として知られ、別名イネドロオイムシともいわれている。分布は意外と広く、北海道、本州、伊豆大島、佐渡、四国、九州、対馬、与那国島、朝鮮半島、中国、台湾とある。

産地：氷上郡幸世, 春日町黒井 [山本, 1958]。出石郡出石町福住 [高橋, 1963]。豊岡市上陰 [高橋, 1975]。城崎郡日高町上郷 [上田, 1996]。養父郡関宮町氷ノ山 (1 ex., 2-VIII-1953 etc.), 関宮町大久保 [木元・日浦, 1971]。美方郡浜坂町城山, 観音山, 清富, 温泉町霧ヶ滝 [磯野, 1985]。

16. *Oulema tristis* (Herbest, 1786)

キアシクビボソハムシ

本種はヨーロッパ産で, *Criocenis tristis* として記載された(1786, in Fnessly, Arch. Ins. 7, p.165)。

日本からはBalyにより1873年に長崎, 対馬, 東南シベリア産の標本で *Lema flarpipes* Suffrとして記録されたのが最初である。

桑山覚博士は *Lema tristis* として、産地として美濃地方, 東京, 長崎, 対馬 (after Baly) を挙げ、日本では珍しい種であるとして記録した。

Gressitt・木元(1961)は、*Oulema*の種として扱った。したがって、現在は表記の学名で扱われている。

大野正男教授は、東京都小仏峠産の標本で、脚は赤みがかった褐色であるが、脛節、ふ節は全く青黒色であるという点で、亜種 *kuwayamai* Ohno を記載してい

る(Ent. Rev. Japan, Vol.14, No.2: 43-44, 1962)。

木元博士による新しい図説(1994)には、この亜種についての言及がない(木元博士の図説における本種の分布はいささか変である。p.104, 271)。筆者はこの種の標本を所有していないので、よくわからない。分布は本州, 九州, 対馬, 朝鮮半島, シベリア, モンゴル, ヨーロッパとなっている。

兵庫県下からは後藤光男氏が *Lema tristis* Herbestとして、宝塚市の池中の枯れたアシの茎中より多数採集したことがある(IV-1951)と、カラーで図説しているのが唯一の記録である。この宝塚の池は後藤氏に案内して頂いたことがあるが、その時はジュウクホシテントウを採集できたがクビボソハムシの仲間は採集できなかった。この池は現在、恐らくなくなっているのではないだろうか。キイロネクイハムシがいた池とは違っていたように思う(キイロネクイハムシのいた池は残っているようである)。現在どのようになっているのか、調べる必要のあるハムシである。

産地：宝塚市 [後藤, 1955; 水野, 1993]。

Genus *Lema* Fabricius, 1798 クビボソハムシ属

この属の種は世界各地に分布し、日本には12種が産する。兵庫県からは9種が記録されている。

Subgenus *Petauristes* Latreille, 1829

17. *Lema (Petauristes) adamsii* Baly, 1865

キベリクビボソハムシ

本種の出産地は中国である(Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 3, 16: 155, 1865)。日本からはBalyが、1877年に長崎の海拔2000フィートの場所において採集したのが最初の記録である。次にJacobyも日本から記録している(1885)。桑山覚博士は1932年、それまでの記録をまとめて発表している。

本種は体背面の斑紋変化があるようである。兵庫県下からはそれほど産地が知られていない。食草がヤマノイモであるから、もっといてもよいと思われる。

分布は本州, 八丈島, 三宅島, 隠岐, 四国, 九州, 対馬, 五島, 平戸島, 甕島, 屋久島, 朝鮮半島, 中国と広い。

産地：神崎郡大河内町川上 [木元・日浦, 1971]。竜野市神岡町 (1 ex., 21-VI-1972)。氷上郡神楽村(青垣町)稲土 [山本, 1953, 1958]。出石郡出石町材木 [高橋, 1963]。

18. *Lema (Petaristes) honorata* Baly, 1873

ヤマノイモハムシ

Balyにより1873年、Nagasaki産で新種記載された種である。桑山 (1932) は多くの産地を示し (中に松村松年博士が7月に高砂で採集した記録も含まれる)、大変普通種であると紹介した。

兵庫県下でも広く分布しているようで、普通に得られる。

和名にあるように、ヤマノイモが食草である。

産地：三原郡論鶴羽山 [大野, 1969; 堀田, 1978], 南淡町沼島 [楠井, 1992], 洲本市先山 [堀田, 1978], 川西市横地 [仲田, 1978, 1982], 宝塚市玉瀬, 安倉北 [水野, 1993], 神戸市摩耶山 (2 exs., 30-IV-1981 etc.), 鳥原 (1 ex., 5-VI-1966 etc.), 藍那 (1 ex., 8-VI-1978 etc.), 八多町屏風 (2 exs., 22-VII-1993), 押部谷町木見 (1 ex., 16-VII-1980), 伊川谷町 (1 ex., 6-VII-1988), 高砂市 [桑山, 1932], 小野市来住町 (1 ex., 26-VI-1991), 飾磨郡夢前町雪彦山 (4 exs., 14-VII-1957), 夢前町我孫子 (2 exs., 5-VIII-1979), 家島町家島 [上田, 1981], 多可郡加美町鳥羽 (14 exs., 5-VII-1955 etc.), 加美町三谷 (1 ex., 8-VI-1975 etc.), 神崎郡大河内町川上 (1 ex., 15-VII-1977), 竜野市神岡町 (3 exs., 13-VI-1988), 揖保郡新宮町福原 (1 ex., 15-VII-1992), 宍粟郡一宮町福知溪谷 (1 ex., 20-VI-1976), 波賀町音水 (2 exs., 20-VII-1959 etc.), 氷上郡 [山本, 1953, 1958], 山南町 (1 ex., 5-VII-1990 etc.), 朝来郡和田山町玉置 [上田, 1996], 出石郡但東町佐々木 [高橋, 1963], 城崎郡日高町金山 [高橋, 1975], 香住町土生, 日高町上郷 [上田, 1996], 養父郡関宮町氷ノ山, 八鹿町妙見山 [上田, 1996], 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 城山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山, 村岡町祖岡 [上田, 1996].

Subgenus *Microlema* Pic, 1928

19. *Lema (Microlema) decempunctata* Gebler, 1830

トホシクビボソハムシ

Baly (1873) は *Lema 10-punctata* Gebler, Hab.-Japan. Common on the coasts, Where it is found on the tea plant; also Northern China and Siberia と記録した。これが本種を日本から初めて記録したものとなる。

Weise (1889) は日本産として var. *japonica* を記載した。

桑山覚博士 (1932) はトホシクビボソハムシとして *Lema decempunctata japonica* Weise を (次の兵庫県産標本を含む。Takasago, Prov. Harima "May, 1903, leg. S. Matsumura", Hyogo, Prov. Settsu "April 14, 1914, leg. S.

Hirayama"), 同時にムモンクビボソハムシとして *Lema decempunctata japonica* Weise var. *brunneipennis* Kuwayama, 1932 を記載した (木元新作博士 (1994) によると, この変種はHyogo, Tokyo, Kyoto産で記載となっているが, Kameoka, Prov. Tamba は京都府であり, 京都・東京産で記載されていることになる)。どちらにしても, 上翅の黒紋は消失する個体もあるが, 現在は表記の学名の種として取り扱われている。

クコを食するハムシとしてよく知られており, クコハムシの名で呼ばれたことがある。

分布は広く, 本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, 中国北部, シベリア東部である。

兵庫県下にも広く分布しており, 場所によっては多く産する。

産地：三原郡南淡町阿万西町 [久松, 1974], 川西市大和 [仲田, 1980, 1982], 川辺郡猪名川町 [リバーフロント, 1994], 伊丹市 [河上, 1984], 宝塚市安倉北 [水野, 1990], Hyogo Prov. Settsu [桑山, 1932], 神戸市六甲山 (3 exs., 4-V-1958), 鳥原 (3 exs., 29-IV-1970), 高取山 [3-V-1960, Torii leg.], 多井畑 (3 exs., 23-V-1991), 三木市末広 [9 exs., 11-VI-1988, M. Nishida leg. etc.], 高砂市 [V-1903, S. Matsumura leg., 桑山, 1932], 氷上郡 [山本, 1958], 美方郡浜坂町護国神社 [磯野, 1985].

Subgenus *Lema* Fabricius, 1798

20. *Lema (Lema) cirscicola* Chûjô, 1959

ルリクビボソハムシ

本種はBalyにより1873年, 長崎産で *Lema puncticollis* Baly として記録された種であり, 桑山覚博士も1932年に同じ学名で多くの産地をかかげて記録した。

1959年, 中條道夫博士は多くの日本各地産標本を用いて *Lema cirscicola* Chûjô と新種記載した。Baly の *L. Puncticollis*, 桑山博士の同種もこの新種に含まれる。

本種は現在のところ, 日本特産種のようなのである。

兵庫県にも広く分布している。食草はアザミ類が知られている。

産地：川辺郡猪名川町杉生新田 [仲田, 1979, 1982], 神戸市六甲山 (2 exs., 18-VI-1967), 多可郡加美町鳥羽 (1 ex., 29-IV-1972), 神崎郡大河内町川上 (3 exs., 14-V-1977), 飾磨郡夢前町我孫子 (1 ex., 5-VI-1979), 揖保郡新宮町福原 (1 ex., 22-VI-1992 etc.), 相生市三濃山 (1 ex., 7-V-1972 etc.), 宍粟郡波賀町音水 (1 ex., 21-VII-1955 etc.), 波賀町赤西 (1 ex., 21-V-1979

etc.), 波賀町坂ノ谷 (3 exs., 9-V-1973). 氷上郡 [山本, 1953]. 出石郡出石町荒木 [高橋, 1975]. 朝来郡和田山町糸井溪谷 [上田, 1996]. 豊岡市三開山 [上田, 1996]. 城崎郡竹野町三原 [高橋, 1975]. 日高町万場, 阿瀬溪谷, 三川山 [上田, 1996]. 養父郡関宮町大久保 [木元・日浦, 1971], 関宮町氷ノ山 (1 ex., 25-VII-1955 etc.), 関宮町鉢伏山 [木元・日浦, 1971], 八鹿町妙見山 [上田, 1996]. 美方郡浜坂町味原, 城山, 観音山, 久斗山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 高橋, 1975].

21. *Lema (Lema) concinnipennis* Baly, 1865

キバラリクビボソハムシ

Baly (1865) により, 北中国産で記載されたものである。日本からは同じく Baly (1973) が長崎, 兵庫 (神戸) 産を記録したのが初めてである。

桑山覚博士 (1932) は var. *ventralis* Kuwayama を記載しているが, 現在は認められていない。

ルリクビボソハムシによく似た色彩をしているが, 腹部末端3節は黄褐色, まれに全体黒色の個体もある。食草はツユクサで, この種の分布の方が広い。兵庫県下でもこの属の中では一番個体数が多い。

産地: 津名郡淡路町岩屋 (1 ex., 29-IV-1961), 愛宕山 [大野, 1969]. 宝塚市上佐曾利 [水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1873; Kuwayama, 1932]. 神戸 [和田, 1950], 神戸市六甲山 (1 ex., 29-V-1967), 神戸市再度山 (1 ex., 20-VI-1979), 藍那 (1 ex., 22-V-1978), 鳥原 (2 exs., 16-V-1971 etc.), 八多町屏風 (1 ex., 6-V-1993). 明石市明石公園 (1 ex., 15-VI-1975). 三木市細川中 (2 exs., 30-V-1985), 大村 [西田, 1989]. 加東郡東条町森 (1 ex., 4-VII-1984). 飾磨郡家島町家島 [上田, 1981]. 氷上郡柏原町 [山本, 1953, 1958]. 出石郡出石町藤坂 [高橋, 1963]. 養父郡関宮町氷ノ山 (1 ex., 27-VII-1956).

22. *Lema (Lema) coronata* Baly, 1873

トゲアシクビボソハムシ

本種について, 筆者はかなり詳しく解説したことがある (きべりはむし Vol. 19, No. 2, p.38-39, 1990). 最近, 森和夫氏は北摂周辺の本種の生態を調べ, イボクサが本種の主要な食草であり (ツユクサも自然状態で食草としている), 水田などの縁にかなりの個体数を見ることができたことを発表し (きべりはむし Vol. 24, No. 1, p.19-23, 1996), 今まで県下では珍しいハムシと考えられていたが, 場所, 時期により多く産

することがわかった。

産地: 津名郡愛宕山 [大野, 1969]. 宝塚市 [後藤, 1955; 水野, 1993]. 川西市笹部, 一庫 [森, 1996], 笹部 (3♂2♀, 28-IV-1996, Mori leg.). 宝塚市長谷 (西谷地区) [森, 1996]. 加東郡東条町森 (1 ex., 18-V-1984, Y.Hachitani leg.). 氷上郡 [山本, 1958]. 朝来郡和田山町枚田岡 [上田, 1996]. 出石郡出石町水上 [高橋, 1963], 城崎郡香住町佐津 [上田, 1996].

23. *Lema (Lema) delicatula* Baly, 1873

キオビクビボソハムシ

本種は Baly によって Nagasaki 産で新種記載された。

桑山覚 (1932) は日本産の例を示し, この美しい種は稀であるが西部日本に広く分布していると述べている。1937年, 「日本の甲虫」の創刊号のトップ図版に美しいカラー写真が神谷一男博士により示され, 当時なんとか採集したいものだと思ったものである。その後, 筆者のフィールドとしている神戸市鳥原貯水池畔にはわりといることがわかった。兵庫県全般から見るとそれほど産地は多く知られていない。産地が他にもまだあると考えられる。食草はツユクサとなっている。産地: 津名郡愛宕山 [大野, 1969]. 宝塚市玉瀬 [水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1874]. 神戸 [岩本, 1937; 和田, 1950], 神戸市鳥原 (1 ex., 4-VII-1971 etc.), 山の街 (3 exs., 30-V-1953). 氷上郡柏原町 [山本, 1953, 1958]. 出石郡出石町伊豆 [高橋, 1965]. 美方郡浜坂町味原, 観音山 [磯野, 1985].

24. *Lema (Lema) dilecta* Baly, 1873

スゲクビボソハムシ

本種は Baly により “Hiogo, Japan; a single specimen” として記載された種であり, 日本産 *Lema* 属中最小種で青藍色の美しいハムシである。兵庫県下の記録は筆者 (1986) が詳しく発表した, あまり目につかないのなかなか採集し難いハムシであると考えていた。1996年, 森和夫氏は北摂地方を中心に本種の生態を調べ, 本種がイボクサを主要な食草として生活していることがわかり (従来食草としてスゲが知られていた), 場所によっては水田の縁などでイボクサを調べるとかなり見ることができるとの報告を行った。産地: 川西市笹部, 一庫 [森, 1996]. 宝塚市 [後藤, 1955; Kimoto, 1964; 水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1873; Kuwayama, 1932]. 神戸市北区山田町金剛童子山麓鰻ノ手池畔 (1 ex., 1-VI-1986).

25. *Lema (Lema) diversa* Baly, 1873

アカクビボソハムシ

頭部は全体黒青色、前胸は赤褐色。体腹面は赤褐色の腹部側方部を除き黒色。触角、肢は黒色。上翅の色彩・斑紋には変異が多く、基本型以外にアカヘリ型 *forma akaheri* Yuasa, 1939, クロスジ型 *forma doii* Kuwayama, アトモン型 *forma morii* Yuasa, ツマキ型 *forma lewisii* Baly などに分けられている。分ける必要がないといえればそれまでであるが、かなりはっきりと分けられるものが存在することは事実であり、そのような型ごとに産地を見てみたい。

本種については古くから貴重な検討論文が多くある。

成虫、幼虫ともにツククサで生活しており、兵庫県下でも *Lema* 属中では最も多くいる種である。基本型、ツマキ型が特に多く産する。

Typical form (基本型)

産地：津名郡愛宕山 [大野, 1969]。川辺郡猪名川町杉生新田 [仲田, 1982]。伊丹市 [河上, 1984]。西宮市盤滝 (1 ex., 10-IX-1987), 宝塚市売布が丘, 切畑字長尾山 [水野, 1993]。神戸 [黒佐, 1955]。神戸市御影 [後藤, 1955]。鳥原 (1 ex., 26-VII-1938 etc.)。藍那 (1 ex., 21-VI-1993), 八多町屏風 (1 ex., 12-V-1973)。飾磨郡家島町家島 (1 ex., 26-V-1978), [上田, 1981]。揖保郡新宮町福原 (1 ex., 10-VI-1992)。氷上郡 [山本, 1958]。多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1995]。朝来郡和田山町枚田岡 [上田, 1996]。城崎郡日高町上ノ郷, 香住町佐津 [上田, 1996]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972]。浜坂町宇都野神社, 城山, 清富 [磯野, 1985]。

forma akaheri Yuasa, 1939 (アカヘリ型)

産地：神戸市鳥原 (1 ex., 8-VIII-1971 etc.)。明石市明石公園 (1 ex., 26-VI-1976)。多可郡加美町三谷 (1 ex., 2-VIII-1976)。

forma doii Kuwayama, 1939 (クロスジ型)

産地：神戸市六甲山 [Heinzz, 1943; 和田, 1950]。鳥原 (1 ex., 4-VII-1939 etc.)

forma morii Yuasa, 1939 (アトモン型)

産地：神戸 [和田, 1939]。神戸市鳥原 (2 exs., 27-VI-1976)。

forma lewisii Baly, 1873 (ツマキ型)

産地：津名郡愛宕山 [大野, 1969]。川辺郡猪名川町槻並 (1 ex., 2-VII-1978)。西宮市船坂 (1 ex., 20-V-1987 etc.)。盤滝 (2 exs., 10-IX-1987)。神戸市鳥原 (1 ex., 23-V-1971 etc.)。妙法寺 (1 ex., 26-VIII-1988),

藍那 (3 exs., 27-VII-1978 etc.)。三木市口吉川町 (1 ex., 14-VII-1986 etc.)。加西市法華山一乗寺 (1 ex., 23-V-1965)。加東郡社町三草 (1 ex., 22-V-1989 etc.)。竜野市神岡町 (2 exs., 19-V-1988)。宍粟郡波賀町音水 (1 ex., 20-VII-1959 etc.)。氷上郡 [山本, 1953]。出石郡出石町荒木 [高橋, 1963]。豊岡市長谷 [高橋, 1975]。養父郡関宮町氷ノ山 (1 ex., 25-VII-1955 etc.)

Genus *Liliocercis* Reitter, 1921 クビナガハムシ属

世界各地に広く分布しているグループで、日本には9種産することが知られており、兵庫県下には6種が分布している。

Subgenus *Bradyceris* Chûjô, 1951

26. *Liliocercis (Bradyceris) lewisi* (Jacoby, 1885)

レイスクビナガハムシ

原記載は日光産。古くから話題にのぼっていた種である。1931年には横山桐郎博士のカラー図説、さらに1937年には神谷一男博士のカラー図説が出て、その美しい姿で注目をあびた。その後、ほとんどの図鑑に出ているが、必ずしも個体数は多くない。辻啓介氏は、氷ノ山山頂で吹きあげられてきた本種10頭近くを採集し、それらを見せて下さったことがある。本種について筆者 (1995) は、全国的視野での報告を行った。

産地：神崎郡大河内町砥ノ峰 (1 ex., 2-VII-1977)。宍粟郡波賀町音水 [1 ex., 22-V-1965, K. Tsuji leg.]。城崎郡日高町阿瀬溪谷 [高橋, 1978]。養父郡関宮町氷ノ山 [岩本, 1936; 辻, 1972; 高橋, 1978; 上田, 1996], (1 ex., 11-VII-1972, K. Tsuji leg.)。関宮町氷ノ山越付近, 氷ノ山大平頭 [永幡, 1996]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 磯野, 1985]。温泉町扇ノ山小ツツコ [永幡, 1996]。村岡町小城, 本谷奥 [永幡, 1996]。

Subgenus *Liliocercis* Reitter, 1921

27. *Liliocercis (Liliocercis) balyi* Chûjô, 1962

ベアリークビナガハムシ

この種はBalyによって1873年, *Criocercis subpolita* var. Bとして“Hiogo”産で記録され、現在大英博物館 (自然史博物館) に所蔵されている1個体の標本によって記載されたものである。その後、兵庫県下での記録も知らなければ日本のどこからも記録が見られないもので、はたして真に兵庫県産であるのかどうかよくわからない種である。戦前、中條道夫博士から神戸

にこのようなハムシがいるかもしれないので探してくれと頼まれたが、残念ながら該当するようなハムシは現在まで見るができない。

産地：兵庫（神戸）[中條, 1962].

28. *Liliocerus (Liliocerus) merdigera* (Linnaeus, 1758)

ユリクビナガハムシ

一般に赤褐色、光沢があり美しい。兵庫県下の記録については、筆者（1990）が詳しく紹介したことがある。その後、県下の新しい産地が知られているが、今のところ限られた産地が知られているだけである。食草としてテッポウユリ、オニユリ、カノコユリなどが知られている。

産地：兵庫[大野, 1967]. 川西市見野字山形[森, 1991]. 神戸市押部谷[森, 1993]. 三木市本町, 口吉川町大島, 善祥寺[永幡, 1990], 大村[高橋, 1991]. 三田市藍本[森, 1991]. 多紀郡篠山町[高倉, 1961].

29. *Liliocerus (Liliocerus) parvicollis* (Baly, 1873)

ホソクビナガハムシ

上翅は赤褐色、前胸背板と頭部は銅褐色。体腹面は一般に赤褐色、小楯板は明瞭な剛毛を密生する。食草はサルトリイバラが知られている。

兵庫県下には広く分布している。ただ次種キイロクビナガハムシと比べて、個体数は少ないようである。産地：川西市原, 笹部[仲田, 1970, 1978, 1982]. 宝塚市売布が丘[水野, 1993]. 西宮市船坂(1 ex., 5-VI-1987). 神戸市六甲山(1 ex., 15-VII-1956), 谷上(1 ex., 3-V-1957), 金剛童子山(1 ex., 24-VI-1956), 北鈴蘭台(1 ex., 7-V-1982), 八多町屏風(4 exs., 6-V-1973), 摩耶(1 ex., 19-V-1978 etc.) 押部谷町木津(1 ex., 27-VII-1984), 伊川谷町(1 ex., 6-VII-1988). 三木市口吉川町(1 ex., 4-IX-1986). 小野市山田町(1 ex., 16-V-1987). 揖保郡新宮町福原(1 ex., 7-VII-1992). 相生市三濃山(1 ex., 3-V-1969 etc.). 多紀郡篠山町雨石山[林ほか, 1995]. 氷上郡[山本, 1953, 1958], 山南町(2 exs., 5-VII-1990). 出石郡但東町[高橋, 1963]. 城崎郡城崎町来日岳[上田, 1996]. 美方郡浜坂町宇都野神社, 観音山[磯野, 1985].

30. *Liliocerus (Liliocerus) rugata* (Baly, 1865)

キイロクビナガハムシ

前種に似るが、小楯板はほとんど剛毛を欠き、触角はやや幅広く、末端節近くでは幅は長さよりわずかに狭く、前胸背板は暗褐色、頭部・触角・体腹面・肢は

全体黒色、小楯板はほとんど暗褐色。食草はヤマノイモ、オニドコロが知られている。

兵庫県全域に産し、やや普通に得られる。

産地：津名郡五色町下堺[堀田, 1978]. 洲本市三熊山[Hiroichi etc., 1977]. 洲本市鮎屋[大野, 1969]. 三原郡諭鶴羽山[大野, 1969], 南淡町沼島[楠井, 1992]. 川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田, 1978]. 川西市西谷村[Kimoto et Hiura, 1964], 山原, 笹部[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市切畑字長尾山, 玉瀬[水野, 1993]. Hiogo[Baly, 1865]. 神戸市御影[関, 1938], 保久良山(3 exs., 1-V-1975 etc.), 柚谷[鳥居, 1961], 布引(1 ex., 17-V-1958), 鳥原(1 ex., 2-V-1943 etc.), 八多町屏風(2 exs., 12-V-1993 etc.), 藍那(1 ex., 20-V-1993 etc.), 谷上(1 ex., 29-IV-1938), 丹生山(1 ex., 5-V-1956), 高取山[鳥居, 1961], 逢山峡(1 ex., 11-VII-1987), 多井畑(1 ex., 23-V-1990). 美濃郡吉川町(1 ex., 27-VII-1985). 多紀郡篠山町雨石山[林ほか, 1995]. 氷上郡柏原(1 ex., 10-V-1953)[山本, 1953, 1958]. 神崎郡笠形山(1 ex., 12-VI-1966). 多可郡加美町三谷(2 exs., 24-VII-1975), 加美町白山(4 exs., 3-V-1973 etc.). 神崎郡大河内町川上(1 ex., 18-VI-1977). 揖保郡新宮町福原(2 exs., 15-VII-1992). 相生市三濃山(2 exs., 7-V-1972 etc.). 栗東郡波賀町音水(1 ex., 20-VII-1959 etc.), 波賀町坂ノ谷(1 ex., 9-VI-1972). 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 城山, 観音山[磯野, 1985]. 養父郡八鹿町妙見山[上田, 1996].

31. *Liliocerus (Liliocerus) subpolita* (Motschulsky, 1860)

アカクビナガハムシ

体背面・腹面は一般に赤褐色、中・後胸側方部は黒色、腹部各節は1対の黒色部を装う。頭部、触角、肢は一般に黒色。体長7.0~10mmで、このグループの中では大きな種である。食草はサルトリイバラが知られている。日本全国に分布するが、海外からは知られていないようである。

兵庫県下にも広く分布している。氷ノ山や音水では一度に多くの個体を採集したことがあるが、他の場所では多数の個体を得られることは少ないように思われる。

産地：三原郡成相峠[大野, 1969], 諭鶴羽山[堀田, 1978]. 洲本市先山[堀田, 1976], 三熊山[Hiroichi, etc., 1977], 由良[堀田, 1978]. 川西市笹部[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市切畑, 検見[水野, 1993]. 神戸市御影[関, 1933], 保久良山(1 ex., 1-V-1975), 鳥原(1 ex., 8-V-1977 etc.), 藍那(1 ex., 14-VII-1978), 押部谷

町木見 (1 ex., 20-VII-1980), 逢山峽 (1 ex., 7-VII-1987), 伊川谷 (1 ex., 6-VII-1988), 石井ダム (1 ex., 18-X-1991). 氷上郡神楽村 (青垣町) [山本, 1953]. 飾磨郡夢前町雪彦山 (2 exs., 14-VII-1957). 揖保郡新宮町福原 (1 ex., 7-VII-1992 etc.). 粟栗郡波賀町音水 (7 exs., 13-VII-1958 etc.), 波賀町坂ノ谷 (4 exs., 9-VI-1973). 出石郡但東町平田 [高橋, 1965]. 城崎郡日高町三川山 [上田, 1996]. 養父郡関宮町氷ノ山 (11 exs., 27-VII-1956 etc.) [木元, 1964; 上田, 1996]. 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 観音山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山 [高橋, 1975].

Genus *Crioceris* Muller, 1764

アスパラガスハムシ属

この属のハムシは日本に2種産し, 兵庫県下からも2種が知られている.

32. *Crioceris orientalis* Jacoby, 1885

カタボシクビナガハムシ

体背面は一般に赤褐色, 上翅の黒紋は変異が多い. 食草はクサスギカズラが知られている. 兵庫県下では宝塚市内での記録があるのみで, 調査が不十分ようである.

産地: 宝塚市宝梅川一丁目 [小田中, 1994].

33. *Crioceris quatuordecimpunctatata* (Scopoli, 1763)

ジュウシホシクビナガハムシ

アスパラガスの害虫として知られている. 県下でもアスパラガスを栽培している地には産すると考えられるが, 記録は少ない (産地では多数の個体が得られているようである). この種も県下の分布を再調査する必要がある.

産地: 城崎郡竹野町和田 [本庄, 1990]. 美方郡浜坂町城山 [磯野, 1985].

参考文献は, 今後の報告におけるものと重複しているものが非常に多いので, 最後に一括して掲載する予定である.

マルエンマコガネを高砂市で採集

岩見 裕介

ぼくは, 1994年10月23日, 高砂市でマルエンマコガネ *Onthophagus viduus* を採集しました. マルエンマコガネは, あまり多い虫ではないと聞いたので, 報告します.

1 ♀, 兵庫県高砂市北浜町北脇, 岩見裕介採集・谷角素彦保管

小学校の帰り, アスファルトの道路のすみで見つけました. 最初, 動かなかったので死んでいるかと思いましたが, 触てみると動き出しました. この虫を採った場所の近くにフンは見当らず, 少しはなれたところに犬のフンがありました. 当日は, 小雨が降っていました.

この虫は, 自宅のまわりの猫のフンでも見られます.

クロコノマチョウを高砂市で採集

岩見 裕介

ぼくは, 1996年4月24日, 高砂市でクロコノマチョウ *Melanitis phedima* を採集したので, 報告します.

1 ♀, 兵庫県高砂市北浜町北脇, 1996-IV-24, 岩見裕介採集

小学校に行こうとしていた午前7時40分ごろ, 人家の近くにある田んぼの枯れた稲にとまっているところを見つけ, 手でつまんで採集しました.

採集したチョウを図鑑で調べたら, クロコノマチョウの秋型の♀とされているものに似ていました.

参考文献

川副昭人・若林守男 (1976) 原色日本蝶類図鑑. 保育社, 大阪.

但馬各地で採集したカミキリムシ

上田 尚志

種々の調査目的で訪れた但馬各地でのカミキリムシの採集データを、まとめて報告する。参考文献にあげた報文(上田, 1987; 谷角, 1988)に含まれる筆者の記録は、今回重複して報告している。同定は『日本産カミキリ大図鑑』(講談社, 1984)によった。

1. ホソカミキリ *Distenia gracilis*
八鹿町妙見山 (1988-VIII-9, 2 exs.; 1988-VIII-10, 1 ex.; 1989-VII-30, 2 exs.)
2. ウスバカミキリ *Megopis sinica*
温泉町扇ノ山 (1983-VIII-12, 1 ex.; 1987-VII-30, 1 ex.), 関宮町氷ノ山 (1990-VIII-7, 3 exs.), 日高町上郷 (1988-VII-29, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 4 exs.), 豊岡市江本 (1988-VII-31, 1 ex.)
3. ニセノコギリカミキリ *Prionus sejuncutus*
八鹿町但馬農高 (1987-VIII-22, 1 ex.)
4. ノコギリカミキリ *Prionus insularis*
関宮町氷ノ山 (1990-VIII-7, 5 exs.), 温泉町扇ノ山 (1983-VIII-11, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 1 ex.; 1989-VIII-12, 1 ex.), 豊岡市大師山 (1992-VIII-28, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.)
5. コバネカミキリ *Psephactus remiger*
温泉町千原 (1987-VIII-13, 1 ex.), 竹野町鬼神谷 (1990-VII-28, 1 ex.)
6. ツシマムナクボカミキリ *Cephalallus unicolor*
関宮町氷ノ山 (1990-VIII-7, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1988-VIII-9, 1 ex.; 1988-VIII-10, 1 ex.)
7. クロカミキリ *Spondylis buprestoides*
関宮町氷ノ山 (1990-VIII-7, 1 ex.), 温泉町扇ノ山 (1987-VII-31, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1988-VIII-9, 1 ex.), 豊岡市江本 (1989-VII-11, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 2 exs.)
8. モモグロハナカミキリ *Toxotinus reini*
温泉町扇ノ山小ヅッコ (1987-VII-3, 1 ex.)
9. カラカネハナカミキリ *Gaurotes doris*
関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 1 ex.), 温泉町扇ノ山小ヅッコ (1987-VI-6, 1 ex.)
10. アカイロニセハムシハナカミキリ *Lemula nishimurai*
温泉町扇ノ山 (1987-VI-6, 2 exs.)
11. ヒナルリハナカミキリ *Dinoptera minuta*
関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 3 exs.), 温泉町扇ノ山 (1987-V-22, 1 ex.; 1987-VI-6, 1 ex.; 1990-V-22, 1 ex.), 日高町三川山 (1988-V-5, 2 exs.), 和田山町糸井溪谷 (1987-V-9, 1 ex.; 1988-V-3, 2 exs.), 豊岡市妙楽寺 (1983-IV-17, 1 ex.)
12. ヘリモンヒメハナカミキリ *Pidonia matsushitai*
関宮町氷ノ山 (1985-VI-9, 1 ex.)
13. ナガバヒメハナカミキリ *Pidonia signifera*
関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 1 ex.; 1985-VI-9, 7 exs.), 温泉町扇ノ山 (1987-VI-6, 1 ex.; 1987-VI-27, 1 ex.; 1990-V-22, 8 exs.), 日高町三川山 (1987-V-31, 2 exs.; 1988-V-24, 2 exs.), 村岡町銚子ヶ谷 (1992-VI-13, 4 exs.), 日高町阿瀬溪谷 (1989-V-4, 1 ex.)
14. ヒメハナカミキリ *Pidonia chairo*
関宮町氷ノ山 (1985-VI-9, 1 ex.)
15. キベリクロヒメカミキリ *Pidonia discoidalis*
温泉町扇ノ山 (1987-VI-6, 2 exs.)
16. オオヒメハナカミキリ *Pidonia grallatrix*
関宮町氷ノ山 (1972-VII-27, 1 ex.)
17. シラユキヒメハナカミキリ *Pidonia dealbata*
関宮町氷ノ山 (1985-VI-9, 2 exs.)
18. ニセヨコモンヒメハナカミキリ *Pidonia simillima*
関宮町氷ノ山 (1985-VI-9, 2 exs.)
19. セスジヒメハナカミキリ *Pidonia amentata*
関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 19 exs.; 1985-VI-9, 2 exs.), 温泉町扇ノ山 (1987-V-22, 4 exs.; 1987-VI-6, 3 exs.; 1990-V-22, 1 ex.), 村岡町大笹 (1992-VI-20, 2 exs.; 1995-V-24, 1 ex.), 日高町三川山 (1987-V-31, 1 ex.; 1988-V-24, 1 ex.), 日高町阿瀬溪谷 (1992-VI-7, 1 ex.)
20. ミワヒメハナカミキリ *Pidonia miwai*
関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 1 ex.; 1985-VI-9, 6 exs.), 温泉町扇ノ山 (1987-V-22, 2 exs.; 1987-VI-6, 3 exs.; 1987-VI-27, 1 ex.; 1987-VII-3, 1 ex.; 1990-V-22, 2 exs.), 村岡町大笹 (1992-VI-20, 2 exs.; 1995-V-24, 1 ex.), 村岡町銚子ヶ谷 (1992-VI-13, 2 exs.), 日高町三川山 (1988-V-24, 2 exs.)

21. チャイロヒメハナカミキリ *Pidonia aegrota*
 関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 1 ex.; 1985-VI-9, 3 exs.),
 豊岡市小島円山川公苑 (1995-V-13, 2 exs.)
22. フタオビノミハナカミキリ *Pidonia puziloi*
 関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 5 exs.; 1985-VI-9, 8 exs.),
 温泉町扇ノ山 (1987-V-22, 3 exs.; 1987-VI-27, 1 ex.;
 1990-V-22, 1 ex.), 村岡町大笹 (1992-VI-20, 1 ex.),
 日高町阿瀬溪谷 (1986-V-25, 3 exs.), 豊岡市小島
 円山川公苑 (1995-V-13, 2 exs.)
23. ヘリウスハナカミキリ *Pyrrhona laeticolor*
 村岡町大笹 (1989-V-17, 1 ex.)
24. ミヤマクロハナカミキリ *Anoploderomorpha excavata*
 温泉町扇ノ山小ヅッコ (1987-VI-6, 1 ex.; 1987-VII-
 -30, 1 ex.)
25. アカハナカミキリ *Corymbia succedanea*
 八鹿町妙見山 (1988-VIII-9, 1 ex.; 1988-VIII-10, 1 ex.),
 和田山町玉置 (1984-VII-15, 1 ex.), 豊岡市大師山
 (1992-VII-28, 1 ex.)
26. マルガタハナカミキリ *Pachytodes cometes*
 関宮町氷ノ山 (1979-VII-27, 1 ex.; 1980-VII-22, 1 ex.),
 八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 1 ex.)
27. ヤツボシハナカミキリ *Leptura arcuata*
 豊岡市伊賀谷 (1983-VI-19, 1 ex.), 豊岡市山本 (1992-
 VI-6, 1 ex.), 和田山町枚田岡 (1987-V-18, 1 ex.;
 1984-V-26, 1 ex.)
28. ムネアカクロハナカミキリ *Leptura dimorpha*
 和田山町糸井溪谷 (1982-V-16, 2 exs.; 1988-VI-25,
 3 exs.), 日高町神鍋 (1986-V-18, 1 ex.), 日高町
 三川山 (1990-V-12, 1 ex.)
29. ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata*
 関宮町氷ノ山 (1979-VII-27, 2 exs.; 1980-VII-22, 1 ex.),
 村岡町大笹 (1995-VIII-2, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1987-
 VII-21, 2 exs.; 1988-VII-22, 3 exs.; 1988-VIII-10, 3 exs.),
 日高町大岡山 (1988-VIII-3, 1 ex.; 1989-VII-25, 1 ex.),
 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VII-23, 1 ex.)
30. オオヨツスジハナカミキリ *Megaleptura regalis*
 八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 2 exs.), 日高町大岡山
 (1987-VII-28, 1 ex.), 日高町上郷 (1986-VII, 1 ex.),
 豊岡市大師山 (1992-VII-25, 1 ex.)
31. カタキハナカミキリ *Pedotrangalia femoralis*
 温泉町扇ノ山小ヅッコ (1987-VI-6, 1 ex.)
32. ヒゲシロハナカミキリ *Japanostrangalia dentatipennis*
 温泉町扇ノ山小ヅッコ (1987-VII-31, 1 ex.), 関宮町
 氷ノ山 (1980-VII-22, 1 ex.)
33. アオバホソハナカミキリ *Strangalomorpha tenuis*
 温泉町扇ノ山小ヅッコ (1987-VI-6, 3 exs.)
34. ニンフハナカミキリ *Parastrangalis nymphula*
 関宮町氷ノ山 (1980-VII-22, 1 ex.; 1990-VIII-7, 2 exs.),
 温泉町扇ノ山小ヅッコ (1987-VI-6, 2 exs.; 1987-
 VI-16, 2 exs.; 1987-VII-31, 1 ex.), 和田山町糸井溪
 谷 (1988-VI-25, 1 ex.)
35. タテジマハナカミキリ *Storangaliella shikokensis*
 温泉町扇ノ山 (1987-VII-31, 1 ex.), 和田山町糸井溪
 谷 (1982-VII-4, 1 ex.)
36. アオスジカミキリ *Xystorocera globosa*
 豊岡市京町 (1988-VIII, 1 ex.)
37. ミヤマカミキリ *Massicus raddei*
 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 2 exs.)
38. トビイロカミキリ *Allotraeus sphaerioninus*
 関宮町氷ノ山 (1980-VII-22, 1 ex.)
39. スネケブカヒロコバナカミキリ *Macromolorchus hirsuta*
 日高町大岡山 (1988-VIII-3, 3 exs.), 豊岡市目坂奈
 佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.)
40. ルリボシカミキリ *Rosalia batesi*
 温泉町扇ノ山小ヅッコ (1983-VIII-11, 1 ex.), 日高町
 三川山 (1987-VII-24, 1 ex.; 1988-VIII-3, 12 exs.;
 1989-VII-25, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-
 VII-23, 1 ex.)
41. ミドリカミキリ *Chloridolum viride*
 豊岡市市場 (1988-V-24, 2 exs.), 豊岡市鉢山 (1982-
 V-15, 1 ex.), 日高町名色 (1989-VII-25, 1 ex.)
42. スギカミキリ *Semanotus japonicus*
 和田山町糸井溪谷 (1988-V-28, 1 ex.), 豊岡市三開
 山 (1981-V-5, 1 ex.)
43. ヒメスギカミキリ *Palaeocallidium rufipenne*
 和田山町糸井溪谷 (1988-V-3, 1 ex.), 日高町上郷
 (1988-V-12, 1 ex.), 香住町佐津 (1983-IV-24, 1 ex.)
44. チャイロホソヒラタカミキリ *Phymatodes testaceus*
 和田山町枚田岡 (1988-VIII-4, 1 ex.)
45. ニイジマトラカミキリ *Xyloterchus emaciatus*
 日高町三川山 (1988-VIII-3, 4 exs.; 1988-VIII-10, 1 ex.),
 八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 1 ex.; 1989-VIII-12, 4 exs.)
46. ムネマダラトラカミキリ *Xylotrechus grayii*
 出石町森井 (1986-VI-1, 1 ex.), 豊岡市江本 (1993-
 VI-8, 1 ex.)
47. ウスイロトラカミキリ *Xylotrechus cuneipennis*
 八鹿町妙見山 (1989-VIII-12, 1 ex.), 関宮町氷ノ山
 (1980-VII-22, 1 ex.), 温泉町扇ノ山 (1987-VIII-24, 1 ex.),
 和田山町糸井溪谷 (1982-VII-4, 1 ex.), 日高町名色
 (1989-VII-25, 1 ex.), 日高町三川山 (1989-VII-25,

- 1 ex.; 1988-VII-10, 1 ex.; 1988-VIII-3, 5 exs.; 1988-VIII-10, 1 ex.), 日高町蘇武岳 (1989-VII-25, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VII-23, 1 ex.)
48. クビアカトラカミキリ *Xylotrechus rufilius*
日高町名色 (1989-VII-25, 2 exs.)
49. キスジトラカミキリ *Cyrtoclytus caproides*
関宮町氷ノ山 (1992-VIII-1, 1 ex.), 温泉町扇ノ山 (1987-VI-16, 1 ex.), 八鹿町栄町 (1981-V-13, 1 ex.)
50. ヨコヤマトラカミキリ *Epicyltus yokoyamai*
関宮町氷ノ山 (1985-V-24, 1 ex.), 温泉町扇ノ山 (1987-VI-6, 1 ex.)
51. タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis*
山東町 (1988-VIII, 2 exs.), 八鹿町栄町 (1981-VII, 1 ex.)
52. エグリトラカミキリ *Chlorophorus japonicus*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-21, 1 ex.), 温泉町扇ノ山 (1988-VIII-1, 1 ex.), 村岡町大笹 (1995-VII-21, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1986-VII-31, 2 exs.; 1987-VII-21, 1 ex.), 日高町三川山 (1988-VIII-3, 3 exs.), 日高町大岡山 (1987-VII-22, 2 exs.), 日高町上郷 (1988-VI-18, 1 ex.), 和田山町枚田岡 (1981-VI-4, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.), 豊岡市山本 (1990-VI-15, 1 ex.)
53. フタオビミドリトラカミキリ *Chlorophorus muscosus*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-22, 1 ex.)
54. キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis*
和田山町枚田岡 (1988-VII-1, 13 exs.), 日高町三川山 (1988-VII-10, 2 exs.), 豊岡市伊賀谷 (1983-VI-19, 1 ex.)
55. トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis*
村岡町大笹 (1993-V-24, 1 ex.; 1995-V-24, 1 ex.), 日高町上郷 (1988-VI-4, 1 ex.)
56. シロトラカミキリ *Paraclytus excultus*
関宮町氷ノ山 (1994-V-27, 1 ex.), 日高町阿瀬溪谷 (1989-V-4, 1 ex.), 和田山町糸井溪谷 (1988-V-13, 1 ex.)
57. ベニカミキリ *Purpuricenus temminckii*
和田山町玉置 (1981-V-9, 1 ex.), 和田山東河 (1983-V-13, 1 ex.), 和田山町糸井溪谷 (1982-V-9, 1 ex.), 八鹿町栄町 (1988-V-14, 1 ex.), 養父町 (1988-V-13, 1 ex.), 豊岡市三開山 (1981-V-5, 1 ex.)
58. ホタルカミキリ *Dere thoracica*
和田山町枚田岡 (1988-VII-1, 10 exs.), 日高町神鍋 (1989-V-27, 2 exs.), 大屋町杉ヶ沢 (1984-VII-2, 2 exs.)
59. シロオビゴマフカミキリ *Falsomesosella gracilior*
和田山町糸井溪谷 (1988-VII-5, 1 ex.)
60. ゴマフカミキリ *Mesosa japonica*
和田山町枚田岡 (1985-IV-27, 1 ex.; 1988-IV-30, 1 ex.), 日高町神鍋 (1986-V-18, 1 ex.), 和田山町竹田 (1983-IV-27, 1 ex.), 豊岡市山本 (1990-VI-15, 2 exs.)
61. ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis*
温泉町扇ノ山 (1986-VIII-9, 1 ex.), 村岡町大笹 (1981-VII-6, 1 ex.), 村岡町祖岡 (1988-VII-23, 3 exs.), 日高町三川山 (1988-VII-10, 1 ex.; 1988-VIII-10, 3 exs.), 八鹿町妙見山 (1988-VIII-9, 1 ex.; 1988-VIII-10, 2 exs.; 1989-VIII-12, 2 exs.), 豊岡市妙楽寺 (1986-VIII-30, 2 exs.), 豊岡市三開山 (1982-VII-18, 1 ex.), 豊岡市大師山 (1992-VII-25, 1 ex.)
62. キクスイモドキカミキリ *Asaperda rufipes*
和田山町糸井溪谷 (1988-VII-5, 1 ex.)
63. コブスジサビカミキリ *Atimura japonica*
豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.)
64. ハイイロヤハズカミキリ *Niphona furcata*
八鹿町宿南 (1984-V-28, 1 ex.)
65. トガリシロオビサビカミキリ *Pterolophia caudata*
温泉町扇ノ山 (1988-VIII-1, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.)
66. アトジロサビカミキリ *Pterolophia zonata*
豊岡市大師山 (1992-VII-28, 1 ex.), 和田山町枚田岡 (1985-VI-6, 1 ex.), 和田山町糸井溪谷 (1988-VI-25, 1 ex.)
67. アトモンサビカミキリ *Pterolophia granulata*
和田山町枚田岡 (1988-V-19, 1 ex.; 1988-VII-1, 3 exs.), 和田山町糸井溪谷 (1988-VI-25, 1 ex.; 1988-VII-5, 3 exs.), 日高町三川山 (1988-VIII-10, 1 ex.), 日高町神鍋 (1989-V-27, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 1 ex.), 八鹿町浅間 (1988-VII-2, 2 exs.)
68. マヤサンコブヤハズカミキリ *Mesechthistatus furciferus*
和田山町糸井溪谷 (1987-VII-26, 1 ex.; 1988-VI-25, 1 ex.)
69. ヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-21, 1 ex.; 1985-VI-9, 1 ex.), 村岡町銚子ヶ谷 (1992-V-30, 1 ex.), 日高町神鍋 (1985-VI-16, 1 ex.)
70. キボシカミキリ *Psacothera hilaris*
温泉町扇ノ山 (1987-VII-30, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1988-VIII-9, 1 ex.; 1988-VIII-10, 3 exs.), 和田山町玉置 (1987-VI-29, 2 exs.)
71. イタヤカミキリ *Mecynippus pubicornis*
日高町上郷 (1989-VII-9, 1 ex.)
72. ゴマダラカミキリ *Anoplophra malasiaca*
八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 2 exs.), 和田山町枚田岡

- (1981-VI-25, 1 ex.), 村岡町大笹 (1981-VIII-6, 1 ex.; 1995-VIII-28, 1 ex.), 日高町上郷 (1987-VIII-25, 1 ex.)
73. ヤハズガミキリ *Uraecha bimaculata*
日高町上郷 (1988-VII-2, 1 ex.), 和田山町枚田岡 (1988-V-27, 1 ex.), 豊岡市三開山 (1988-VII-24, 1 ex.), 豊岡市大師山 (1992-VII-25, 1 ex.)
74. カラフトヒゲナガカミキリ *Monochamus saltuarius*
和田山町枚田 (1981-VI-13, 1 ex.)
75. ヒメヒゲナガカミキリ *Monochamus subfasciatus*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-22, 2 exs.), 温泉町扇ノ山 (1988-VIII-1, 1 ex.), 村岡町大笹 (1995-VIII-2, 1 ex.), 和田山町糸井溪谷 (1988-VI-25, 1 ex.; 1988-VII-5, 2 exs.), 八鹿町妙見山 (1988-VII-22, 1 ex.), 八鹿町浅間 (1988-VII-2, 1 ex.), 日高町三川山 (1988-VII-10, 2 exs.; 1988-VIII-3, 1 ex.), 日高町上郷 (1988-VII-2, 1 ex.), 日高町阿瀬溪谷 (1987-VII-22, 1 ex.)
76. ヨコヤマヒゲナガカミキリ *Dolichoprosopus yokoyamai*
温泉町扇ノ山小ツッコ (1987-VII-30, 1 ex.)
77. センノキカミキリ *Acalolepta luxuriosa*
和田山町枚田岡 (1987-X-7, 1 ex.; 1988-XI, 1 ex. (死骸)), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.)
78. ピロウドカミキリ *Acalolepta fraudatrix*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-21, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1983-VIII-2, 1 ex.; 1988-VIII-10, 2 exs.; 1989-VII-30, 2 exs.), 村岡町大笹 (1993-VII-31, 1 ex.), 日高町阿瀬溪谷 (1987-VII-22, 2 exs.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.)
79. ニセピロウドカミキリ *Acalolepta sejuncta*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-21, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1983-VIII-2, 1 ex.; 1988-VIII-9, 2 exs.; 1988-VIII-10, 2 exs.), 豊岡市伊賀谷 (1993-VI-19, 1 ex.)
80. シロスジカミキリ *Batocera lineolata*
八鹿町柴町 (1981-V-31, 1 ex.), 養父町広谷 (1981-V-29, 1 ex.)
81. ヒゲナガゴマフカミキリ *Palimna liturata*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-22, 1 ex.; 1990-VIII-7, 1 ex.), 温泉町扇ノ山 (1986-VIII-7, 1 ex.)
82. シロチビコブカミキリ *Miccolamia tuberculata*
関宮町氷ノ山 (1985-VI-9, 1 ex.)
83. スジマダラモモブトカミキリ *Acanthocinus orientalis*
日高町大岡山 (1992-VIII-23, 1 ex.)
84. トゲバカミキリ *Eryssamena saperdina*
日高町三川山 (1988-VIII-3, 1 ex.)
85. アトモンマルケシカミキリ *Exocentrus lineatus*
八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 1 ex.)
86. シラオビゴマフケシカミキリ *Exocentrus guttulatus*
和田山町枚田岡 (1987-VI-29, 1 ex.)
87. ニセシラホシカミキリ *Pareutetrappa similans*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-22, 1 ex.; 1979-VII-27, 1 ex.), 温泉町扇ノ山小ツッコ (1987-VII-30, 1 ex.; 1988-VIII-1, 1 ex.)
88. ハンノアオカミキリ *Eutetrappa chrysochloris*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-23, 1 ex.; 1990-VIII-7, 1 ex.), 村岡町大笹 (1995-VII-7, 1 ex.)
89. ヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota*
八鹿町妙見山 (1983-VIII-8, 1 ex.), 豊岡市妙楽寺 (1981-VII-30, 1 ex.)
90. ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei*
関宮町氷ノ山 (1980-VII-21, 3 exs.), 八鹿町妙見山 (1987-VI-14, 2 exs.; 1988-VII-5, 4 exs.; 1988-VI-18, 1 ex.; 1988-VIII-9, 1 ex.; 1988-VIII-10, 4 exs.), 八鹿町柴町 (1981-V-27, 1 ex.; 1981-VI-30, 1 ex.; 1981-VII-11, 1 ex.; 1982-VII-22, 1 ex.), 和田山町糸井溪谷 (1988-VI-25, 1 ex.), 和田山町玉置 (1987-VII-11, 1 ex.), 養父町谷間路 (1987-VI-27, 1 ex.), 朝来町青倉 (1982-VI-27, 1 ex.), 日高町上郷 (1987-VII-6, 1 ex.), 日高町大岡山 (1987-VII-22, 2 exs.), 香住町土生 (1989-VI-25, 1 ex.), 豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-6, 1 ex.), 豊岡市伊賀谷 (1983-VI-19, 1 ex.)
91. シラホシカミキリ *Glenea relicta*
八鹿町妙見山 (1988-VIII-10, 5 exs.), 八鹿町浅間 (1988-VII-2, 1 ex.), 日高町上郷 (1988-V-24, 1 ex.; 1988-VI-4, 1 ex.), 豊岡市大師山 (1992-VII-28, 1 ex.), 関宮町氷ノ山 (1992-VIII-2, 1 ex.)
92. イッシキキモンカミキリ *Glenea centroguttata*
豊岡市目坂奈佐森林公園 (1993-VIII-7, 1 ex.)
93. ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella*
温泉町扇ノ山 (1986-VIII-9, 2 exs.; 1987-VI-16, 1 ex.; 1987-VI-27, 1 ex.; 1987-VII-3, 3 exs.; 1987-VII-30, 1 ex.; 1988-VIII-1, 1 ex.), 関宮町氷ノ山 (1980-VII-21, 1 ex.), 八鹿町妙見山 (1987-VI-14, 1 ex.; 1987-VII-28, 1 ex.; 1988-VIII-9, 1 ex.), 和田山町糸井溪谷 (1988-VI-25, 1 ex.), 豊岡市三開山 (1988-VI-21, 1 ex.), 和田山町枚田岡 (1987-VII-11, 1 ex.), 村岡町大笹 (1995-VII-7, 1 ex.; 1995-VIII-2, 1 ex.)
94. ヒメリンゴカミキリ *Oberea hebesceus*
温泉町扇ノ山 (1986-VIII-9, 1 ex.), 関宮町氷ノ山 (1985-VI-9, 1 ex.)

95. ホソキリンゴカミキリ *Oberea infranigrescens*
温泉町扇ノ山 (1986-VIII-9, 1 ex.)
96. ヨツキボシカミキリ *Epiglenea comes*
温泉町扇ノ山 (1987-VII-24, 2 exs.), 日高町阿瀬渓谷
(1987-VII-22, 5 exs.), 和田山町糸井渓谷 (1988-VI-25,
2 exs.), 日高町上郷 (1988-VI-25, 2 exs.), 八鹿町
浅間 (1988-VI-4, 1 ex.), 豊岡市妙楽寺 (1989-V-15,
1 ex.)
97. セミスジニセリンゴカミキリ *Eumecocera trivittata*
村岡町大笹 (1996-VII-9, 1 ex.)
98. チチブニセリンゴカミキリ *Nipponostenostola niponensis*
関宮町氷ノ山大久保 (1985-V-24, 1 ex.)
99. キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris*
和田山町枚田岡 (1985-VI-28, 1 ex.), 日高町上郷
(1986-V-18, 1 ex.; 1987-VI-14, 1 ex.; 1988-V-11,
1 ex.)

あとがきにかえて

昆虫図鑑で飽きもせず眺めたルリボシカミキリ。兵庫県では扇ノ山に記録があるという、幻のカミキリだった。このあこがれの虫に最初に出会ったのは、高校2年の夏の鉢北高原。大沼の先にある丘の倒木で見た街頭かのルリボシカミキリの姿は、今でも青い輝きを放って脳裏に残っている。林縁のやや乾いた倒木では、ウスイロトラカミキリとキスジトラカミキリが這い回っていた。その日の夜のアセチレンランプの白い輝き、そしてハンノアオカミキリ、ヤハズカミキリ、アカアシクワガタと次々に飛来する虫達を見て、僕はすっかり甲虫の世界にはまり込んでしまった。

高校生時代に採集したカミキリムシは、すべて豊岡高校の火災で灰になってしまった。当時、豊岡高校の

裏山である神武山では、子ども達がクワガタムシとともにホシベニカミキリを虫カゴにたくさん入れていた。斜面のタブノキも焼き払われてしまったが、注意して探せばこの近辺にはいるはずだ。オオハナカミキリの記録も、当時としてはたいへん珍しい記録であった。今回のリストにない種について、当時の記録をフィールドノートから拾い、参考記録として追加しておきたい。

- (100)ホシベニカミキリ *Eupromus ruber*
豊岡市京町神武山 (1969-VI-10, 1 ex.; 1970-VII-3,
1 ex.; 1970-VII-16, 1 ex.)
- (101)オオハナカミキリ *Konoa granulata*
豊岡市上佐野 (1970, 1 ex. 高木)
- (102)ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta*
豊岡市下鶴井 (1970-VI-6, 多数)
- (103)キバネニセハムシハナカミキリ *Lemula decipens*
豊岡市妙楽寺 (1970-V-14, 1 ex.)
- (104)ヒメアカハナカミキリ *Brachyleptura pyrrha*
関宮町氷ノ山 (1970-VII-26)
- (105)クスベニカミキリ *Pyrestes haematicus*
村岡町大笹 (1969-VIII-7), 日高町阿瀬渓谷 (1969-VII-24)

参考文献

- 上田尚志 (1987) 出石町にてムネマダトラカミキリを採集, IRATSUME 11:98.
- 谷角素彦 (1988) 但馬地方におけるラミーカミキリの記録, IRATSUME 12:31-33.
- 日本鞘翅目学会 (1984) 日本産カミキリ大図鑑, 講談社.

但馬むしの会の年会費は3000円です。

**会費未納の会員は速やかに
お支払いください。**

**また、本誌に寄稿された方は、
原稿掲載料として**

1000円をお支払いください。

22号に向けて、カンパも募ります。

郵便振替は、

01120-3-16245, 但馬むしの会、です。

但馬むしの会 会員募集

但馬むしの会では新入会員を募集しています。

昆虫に限らず、広く自然の好きな方、

**但馬の自然環境とそこで生活している様々な
生き物たちに興味のある方、**

是非入会してください！

**あなたのお友達や、お知り合いにも
入会をおすすめてください！**

入会の申し込みは事務局

〒669-68 美方郡温泉町井土932-10,

黒井和之まで。

休耕田のハッチョウトンボ 14年後の追跡調査

上田 尚志

1. はじめに

ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* が豊岡市内の休耕田に広く生息することは、高橋 (1983, 1985 a, 1985 b) によって報告された。1982年に市内16カ所の休耕田と自然湿地2カ所の計18カ所でハッチョウトンボの生息が確認され、1983年に市内9カ所でおこなわれた個体数調査によると、合計1244個体が確認されている。

14年後の現在、環境の変化に敏感だといわれる本種の生息状態を知ることで、豊岡盆地の湿地環境の現状の一端を知ることができるのではないかと考え、これらの生息地の追跡調査を実施した。この調査は豊岡市のコウノトリの郷公園推進室の水辺の生物調査の一環として実施し、すでに筆者が結果をとりまとめた (上田, 1996)。調査には、当会から高橋匡氏、大槻秀治氏および筆者が参加しているので、結果を本誌にも報告しておきたい。

調査は、1996年7月21日の午前中に実施した。3グループに分かれ、14年前の生息地18カ所と、その後に生息が確認された2カ所の休耕田を加えて、20カ所をできるだけ正確にたどり、ハッチョウトンボやその他の水生生物の生息状況、および湿地の状態を記録した。また、7月21日前後にも補足的に調査をおこなった。

2. 調査結果

(1) ハッチョウトンボの生息状況

調査結果を、表1に示した。20カ所の生息地のうち本種が生息していたのは、自然湿地である市場の1カ所のみで、18カ所の休耕田では全滅であった。同時に従来の生息地周辺の探索をした結果、新たな生息地が2カ所、いずれも休耕田 (伊賀谷、祥雲寺・栄町) でみつかった。確認した個体数は、従来の生息地では5個体、新生息地を含めても25個体で、13年前の1244個体には遠く及ばなかった。

(2) 湿地環境の変化

調査した湿地の現状別の件数を、表2に示した。

18カ所の休耕田について、ハッチョウトンボが姿を消した原因を見ていくと、18カ所中12カ所では、耕作の再開や開発などの人為的な原因で湿地そのものが消滅し、残る6カ所では植生の遷移が進み湿地の状態が変化したか、消滅したためであると考えられる。ただし祥雲寺・栄町だけは、一見良好な環境が残っているにもかかわらず、本種を見ることができなかった。

2カ所の自然湿地のうち、九日市は湿地がほぼ消滅していた。これは排水溝の工事など、人為的な原因による。市場は湿地としては現状が維持されており、ハッチョウトンボの個体数は少なかったものの、14年前の生息地のなかで唯一生き残っていた産地となった。

3. 湿地環境の変化とハッチョウトンボ

休耕田では、開発などの人為的な行為がなくても、放置すれば植生の遷移により、特別の条件のあるところを除き、時間が経過すればハッチョウトンボはいなくなると考えられる。今回、新たに本種が発見された伊賀谷の休耕田は、イネの切り株などが残っていることなどから判断して、そう古いものではない。休耕田という湿地環境は一時的なものでしかなく、そこにすむハッチョウトンボも同じ運命をたどったといえる。そして、伊賀谷のように新しい休耕田に今後も一時的に生息することは考えられる。

ただし、条件の良い休耕田では、ハッチョウトンボが継続して生息し続ける可能性はある。栃江の休耕田では、一昨年まで本種が生息していた。ここは湧水があり、一部に沼地のような環境があった。モリアオガエルやイモリも生息し、その周辺に浅い湿地が広がっていた。今回、新たに生息が確認された祥雲寺・栄町の休耕田も、湧水があり栃江に近い環境が保たれている。このようなところでは、自然湿地に近い状態に戻ったと考えて良いかもしれない。

今回、14年前の生息地の唯一の生き残りとなった市場の湿地は、モウセンゴケやミズゴケなどの湿地性の植物があるので、古くからの自然湿地と考えられる。このようなところでは、同じ湿地内に多様な環境が形

表1. ハッチョウトンボ追跡調査結果

1982年に確認された、休耕田18カ所、自然湿地2カ所、計20カ所の生息地と、14年後の1996年の、ハッチョウトンボの生息個体数と現場の状況の記録。

() で記録した個体数は、現場周辺で今回新しく確認された生息地の個体数を示す。

場所	環境	個体数 ♂, ♀	調査日	現場の状況
野上	休耕田	0, 0	8/17	コウノトリ増殖施設ができ消滅。
法花寺	休耕田	0, 0	8/17	水田耕作が再開されている。
祥雲寺 栄町	休耕田	0, 0 (11, 7)	6/9	コウノトリ郷公園センター予定地。14年前休耕田であったが、その後稲作が再開された。本年春より郷公園の一部となり耕作はされていない。今回の調査で、同じ谷の少し上のやや古い休耕田と隣接する1年目の休耕田で生息を確認した。 (オカザン、イリ、オコイシ、ガムシ、キイトンボ、モントイトンボ)
祥雲寺	休耕田	0, 0	6/9 8/17	コウノトリ郷公園野生化ゾーン予定地。休耕田のままであるが生息していない。1枚は常時水のある沼地状、他の1枚は少し乾き草丈はやや高い。昨年度も調査したが、確認できなかった。
奥野	休耕田	0, 0	7/21	道路工事中。生息していない。
市場	湿地	5, 0	7/21	自然湿地、状況の変化はない。個体数は少ないが生息している。 (オコイシ、ハレ、イトンボ)
森尾	休耕田	0, 0	7/21	道路ができ消滅。付近に状態の良い別の休耕田があるがハッチョウトンボはいない。
立石	休耕田	0, 0	7/21	ヨシ、ササ類が茂る。
伊賀谷	休耕田	0, 0 (2, 0)	7/21	放棄され、ヨシが茂る。谷全体が荒れている。別の谷の休耕田に新生息地を発見した。2～3年目の休耕田と思われる。 (オカザン、イリ、オコイシ)
江野	休耕田	0, 0	7/20	水田耕作が再開されている。
福成寺	休耕田	0, 0	7/20	畑作地となる。
宮井	休耕田	0, 0	7/20	放棄され、ヨシが茂る。
岩井	休耕田	0, 0	7/20	放棄され、ヨシが茂る。
福田	休耕田	0, 0	7/20	休耕田は残るが、雑草が繁茂。
戸牧	休耕田	0, 0	7/20	水田耕作が再開されている。
九日市	湿地	0, 0	7/21	一部埋め立て、水路ができ湿地状態が縮小、消滅。
佐野	休耕田	0, 0	8/17	河川に沿った小さな湿地であったが、道路となっている。
鍛屋橋	休耕田	0, 0	7/21	湿地は確認できず。付近に別の休耕田があり湿地としての状態はよいが、ハッチョウトンボはいない。
三開山	休耕田	0, 0	7/21	一部埋め立て、残りも雑草が繁茂。
栃江	休耕田	0, 0	7/20	水田耕作が再開されている。
計		5, 0 (13, 7)		

表2. 調査した休耕田・湿地(20カ所)の現状別件数
(*市場だけに生息)

	現 状	件数	場 所
①	水田耕作や畑作が再開されたため湿地状態が消滅	6	法花寺, 祥雲寺, 戸牧, 江野, 福成寺, 栃江
②	道路などの開発のため湿地状態が消滅	6	三開山, 佐野, 九日市, 森尾, 奥野, 野上
③	植生の遷移が進んだため湿地状態が消滅, あるいは状態の変化	6	立石, 伊賀谷, 宮井, 岩井, 福田, 鍛屋橋
④	良好な湿地は残っている	2	祥雲寺・栄町, *市場

成されており、単一条件になりやすい休耕田に比べて、種の維持にとっては有利であるようにみえる。

4. おわりに

今回の調査で、人里の湿地環境の将来は実に厳しいことが感じられた。また、自然湿地の重要性も認識できたように思う。

豊かな自然に生息するはずのハッチョウトンボが、休耕田という日本の農政の隙間のような場所に生息し、そして自然の遷移という現象によって消えていくという事実は、人と自然の共生関係の一端を示しているように思える。

参考文献

- 高橋 匡 (1983) 豊岡市におけるハッチョウトンボの分布, IRATSUME 7:19-21.
- 高橋 匡 (1985a) 昭和58年度ハッチョウトンボ個体数調査, IRATSUME 8:9:56.
- 高橋 匡 (1985b) 豊岡市戸牧の休耕田におけるハッチョウトンボ個体数の消長, IRATSUME 8:9:57-60.
- 上田尚志 (1996) ハッチョウトンボ生息調査, FLY TO THE WILD 5, コウノトリの郷公園推進室:5-9.

兵庫県の蝶／観察と知見（Ⅰ） （ホシチャバネセセリとミヤマチャバネセセリ）

大東 康人

はじめに

兵庫県の地形を地図上で概観すると、西北部は中国山地の東端に位置しており、東方に向かって次第に標高を減じている。また、県内には日本海と瀬戸内に注ぐ一級河川を始めとする多くの水系と、これによる浸食で編目状に広がる1000m級29座を含む山稜等が複雑に絡み合い、近隣の各府県には見られない日本海型と瀬戸内型の2つの気候区を有している。

これらの変化に富む自然環境を受けて、県下で生息が確認された蝶類は118種を数え、自然の多様性を如実に反映したものとなっている。

一方、県内の土地の利用状況とその推移を辿ってみると、ここ40年の間に都市部や道路網の拡大が進むかわら、放置された農地や山林の荒廃が県下全域にわたって進行している。この背景には、昭和30年代に始まる高度経済成長と産業構造の変化で、1～3次産業間の労働者の就業比率が大きく変わり、また外国からの安価な輸入資材（食料や木材など）の流入によって農業や林業の経済性が損なわれたことも、一因として挙げられよう。

これとともに、県内の自然環境と生息する蝶類も直接間接の影響を受けており、兵庫県版レッドデータブック（1995年）によれば蝶類では絶滅種1種、絶滅危惧種2種、危急種17種、希少種24種、要注目種7種など、年を追って深刻さを増す状況に追い込まれている。

この実態を前にして、早急に県下各地での蝶類の生息の実態を記録しておく必要を感じ、1993年より、主に西播但馬地方を訪ねてきたが、今回はセセリチョウ科のホシチャバネセセリ *Aeromachus inachus* とミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis* に焦点を当て、但馬での成虫の観察結果を報告することにしたい。

ちなみに、ホシチャバネセセリは兵庫県のレッドデータブックでは危急種（絶滅の危機が増大している種等、極力生息環境等の保全が必要な種）に、またミヤマチャバネセセリは要注目種（最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標と種、特殊な分布を種等の希少種に準ずる種）に掲げられており、但馬における両種

の記録は、過去いずれの年代も非常に少ない状況にある。

観察地の概要

1994年～'96年にかけて訪れた観察地は、養父郡にある草原（標高約750m、周囲は落葉樹の疎林や雑木林、また一部に湿地も見られる）で、かつては採草や牛馬の放牧に使用されていたと聞けるが、現在は一部が採草に利用される程度である。全体はススキ・ワラビなどに覆われており、アザミ・オカトラノオ・ヒヨドリバナ・オミナエシ等をはじめ四季折々の草花が見られ、開花植物の季節ごとの分布密度は、湿地の周辺部で常に高いことが観察された。この草原は各種ヒョウモンチョウ類やセセリチョウ類の生息地となっているが、彼らの行動範囲は、常に湿地の周辺を起点にしているように見える。なお、日照時間帯については、夏場の草原の中心部では午前7時～午後5時頃である。

ホシチャバネセセリ

1. 種の概要(A)

11種を数えるホシチャバネセセリ属の中で、本種は日本に生息する唯一の種で、分布域は台湾・中国大陸・アムール・朝鮮半島を経て、日本が分布の東限にあたる。国内では本州と対馬のみに産し、本州では青森から山口にかけて広く記録はあるが、その分布は一般に局地的である。地域別にみると、東北では太平洋側に偏り、また関東の北・西部や中部の長野・山梨とその周辺に産地が多く、これら以外にも福井・石川の県境付近に離れた産地が知られる。一方、近畿は分布の大きな空白地帯となるが、これより西、すなわち兵庫以西の中国山地に産地が点在している。もっとも、瀬戸内の沿岸部では極めて稀である。

発生は、地域によって年1化と2化に分かれ、東北や北関東から中部地方の山地では年1化、成虫は7～8月に出現する。一方、関東南部から山梨・愛知、および中国地方の低山地では年2化の地域もあり、成虫は6月中旬～7月上旬と8月下旬～9月上旬に見られ

る。なお、越冬態は3齢幼虫で、食草上の枯れた巢の中にこもる。

生息環境については、本州では主に低山地や丘陵地の草原、火山の裾野に見られるが、湿性草原の周囲でも発生することがあり、さらに長野などでは標高1300m前後の乾燥草原にも生息している。対馬では草原が乏しいためか、平野部の草原にはほとんど見られず、林内の道路沿い、しかも樹林間の小さな草地、あるいは疎林の周辺や谷間などに多い。

幼虫はイネ科のオオアブラススキのみを食し、若齢幼虫は大きな株よりも、木陰に生える貧弱な株を好む傾向にあるが、このほか、例外的にススキから幼虫が発見されたケースもある。

2. 兵庫県における過去の記録(B)

これまでに発表された県内の同好会誌等の資料を基に発生地ごとの個別カルテを作成しようと試みたが、1地域あたりのデータ量があまりにも少なく、残念ながら発生時期や発生回数など、検討に値する資料にはなり得なかった。したがって、ここでは単に過去に記録のある場所を記載するに留めた。

* 東播

三国岳 多可郡加美町千ヶ峰

* 中播

飾磨郡夢前町雪彦山 神崎郡大河内町砥峰

* 西播

赤穂郡上郡町大杉谷 赤穂郡上郡町野桑

佐用郡佐用町真盛 佐用郡上月町久崎

" " 内海 " " 大日山

" " 若州 " " 上秋里

" " 奥海

" 南光町東徳久城山田倉谷

宍粟郡波賀町水谷東山高原

* 北但

城崎郡日高町金山 美方郡村岡町耀山

美方郡村岡町黒田 " " 瀬川山

* 南但

養父郡関宮町梨ヶ原 養父郡大屋町若杉

" " 大久保 " " 杉ヶ沢

" " 葛畑 朝来郡生野町大外

" " 別宮

朝来郡生野町栃原(L)(2化: 6/中~7/下, 8/中~9/中)

* 丹波

氷上郡青垣町栗鹿山 氷上郡青垣町鳥峠

3. 観察事項

①発生状況

観察地での本種の発生数は非常に少ないと考えられ、これまで3年間にわたって観察を続けたが、同時に3頭以上が目撃されたケースはなかった。一方、発生時期の検討については、同行者を含めた1977年以降の訪問記録(5月27日~9月2日)を集めたところ、成虫の発生が見られた期間は7月24日~8月14日の間に限定されており、結果として推定される本観察地での発生回数は、参考文献の(A)と(L)、および(D)【岡山県内の中国山地では年1化。一方の吉備高原では年2化(7/上~, 8/下~)を主体とするが、一部には年1化も見られる】などと比較しても、明らかに年1化であることを示している。

②成虫発生の年偏差について

また、観察地における年ごとの発生期のズレ、すなわち「年偏差」についても検討を試みた。これによると'94年を基準にした'96年までの3年間の発生状況は、'95年は約10日、さらに'96年には15日程度、本種の発生に遅れが生じていた。しかしながら、同じ場所で発生している各種ゼフィルスの発生時期は、'94年以外は平年並であった。何故、このように発生時期に差異が生じるのか?

この期間の但馬地方の気候を思い出してみると、'94年は暖冬に加えて春~秋の降雨量が極端に少なく、昆虫の発生は全体に1週間ほど早まったが、翌年は冬・夏とも平年並に戻り、さらに'96年は山間部における冬季積雪量の著しい増加によって、春の訪れは大幅に遅れることになった。

このことから、雪解けを待つて芽吹きを迎える草本を食餌植物に選んだ越冬幼虫にとって、残雪量が成長に影響を与えるであろうことは想像に難くない。一方のゼフィルスは卵越冬であり、食餌植物がブナ科などの木本であることから(産卵位置の地上からの高さにもよるが)相対的に雪の影響を受けにくい状況にある。

したがって、冬季は雪の下に隠れる草本類を食草とした種は積雪量によって、同じ地域で春を迎えたとしても、雪に覆われない木本類を食樹に選んだ種に比べ

ると、成虫の発生に年偏差が生じやすいと考えられる。

③成虫の生息環境と活動範囲

この観察地で成虫が見られた場所は、先に述べた草原の中心部や湿地帯ではなく、周辺部、それも落葉樹林帯に接して日陰が多く、また1.5m前後のススキ（オオアブラススキか否かは未確認）が一面に生い茂り、開花植物の少ない地域に限られていた。このため、日照時間は草原の中心部に比べて約3時間も少なく、一見、生息にふさわしくない環境とみたのだが、本種はいずれの年もこの地域から大きく離れることはなく、行動範囲は意外に狭いことがうかがい知れた。

しかしながら1995年の開田高原（長野県、8月6日）では、一面にススキ類が覆う日当たりの良い斜面の中心部で多数目撃したほか、参考文献(A)(C)(E)などにも、地域ごとに異なった環境で生息する事例が報告されており、今後、本種が好む生息環境について、県下各地の観察結果を集積していく必要がある。

④活動開始時間

活動を開始する時間は、観察地の日照条件が芳しくないことも理由であるのか、晴天微風の好条件下であっても午前9時前と遅く、それまではススキの葉上に静止していた。近隣に広がる草原の中心部ではセセリ類を含む多くの蝶が、既に1時間ほど前から飛翔を開始しているのに対して、この観察地で見える限り、本種は独特の生活時間を持っていると思われる。

⑤成虫の活動時間と日照

観察地での成虫の活動時間帯は午前9時前から午後4時頃と短いものであったが、その間には活発な行動が見られた。しかしながら、日照には極めて敏感に反応し、陽が陰ると行動を止めて葉上に静止することが多い。

一方、活動時間帯における活動と休息については、本種の観察頭数が少なく把握し難い面もあるが、午後の活動は午前の行動に比べて、移動距離・飛翔頻度ともに、より積極性がうかがえた。

今後、成虫の活動と天候・気温・風速・時間等との関係について、調査することが必要である。

⑥雄の占有行動

雄は、周囲が見渡せ、かつ陽のあたるススキの葉上に好んで立ち寄り、翅を戦闘機の翼に近い姿勢、あるいは完全に閉じた状態でテリトリ一行動や日光浴を行

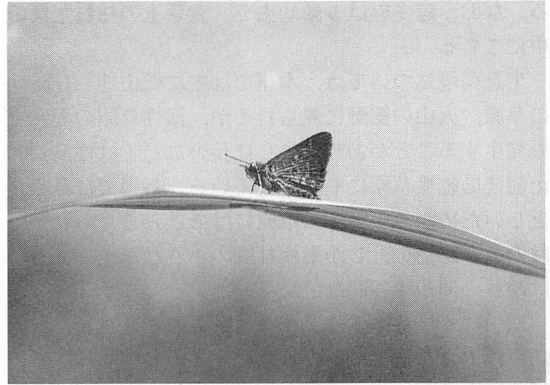


写真1. ススキの葉上に静止するホシチャバネセセリ



写真2. ススキの葉上に静止するミヤマチャバネセセリ



写真3. アザミで吸蜜するミヤマチャバネセセリ

い（写真1）、他のセセリ類やハエ等、小型昆虫の接近に敏感に反応しては、追飛や威嚇行動をとっていた。しかしながら、同一の静止位置へのこだわりは個体によって様々で、飛翔しても元の位置に舞い戻る個体がいる一方で、全くこだわらずに移動してパトロールまがいの行動をとるケースもあった。

これは、観察地での発生数の少なさが一因かと思うが、詳細は不明である。今後の調査に期待したい。

ミヤマチャバネセセリ

1. 種の概要(F)

本種は熱帯が起源とされるチャバネセセリ属10種の中で唯一温帯圏に生息し、中国東北部・アムール・朝鮮半島を経て、日本が分布の南限にあたる。国内では本州・四国・九州と佐渡島・隠岐に分布するが、いずれの地でも産地は狭く限られ、発生数は多いものではない。

越冬態は蛹で、年2回発生を基本とするが、九州の一部に年3回の産地もある。ちなみに、関東・中部・近畿の低山地における発生時期は、第1化が4/中～6/上、第2化は7/下～9/中となっている。

また、食草をススキ（他にヒメノガリヤス・ヨシ・チガヤ・アブラススキ等）とする本種は、高茎イネ科草本の群落を生息地として好むが、地域によって溪流沿いや林縁の明るい草地（本州中部）、火山の裾野草原（富士山）、湿地周辺の草地（愛知県）、河原に低木が混じる草地（神戸市）、海岸付近のマツの疎林（鹿児島）など、広範な環境を生息地にしている。

2. 兵庫県における過去の記録

本種も、前種と同様に1地域当たりのデータ量が少なく、個別カルテを作成することはできなかった。したがって、ここでは過去に記録のある場所を列記するに留めたい。

* 阪神・北摂地区

神戸市御影(G)	川辺郡猪名川町上阿古谷(J)
" 道場(J)	" " 三草山
" 六甲山地(G)	" " 槻並

* 東播

三木市大村(K)

* 中播

姫路市広畑区才 神崎郡大河内町川上

* 西播

相生市三濃山	宍粟郡山崎町蔦沢
" 光明山	" 一宮町福知
赤穂市周世	" " 小原
宍粟郡千種町三室山	" 波賀町音水

* 北但

城崎郡日高町金山	美方郡村岡町黒田
城崎郡香住町御崎(N)	美方郡村岡町耀山(M)
" 城崎町来日岳(M)	" " 藩川山
出石郡出石町床ノ尾山(M)	

* 南但

養父郡大屋町若杉	養父郡関宮町福定(N)
" " 横行	朝来郡朝来町奥田路
" " 杉ヶ沢	

朝来郡生野町栃原(L) (年2化:1化は稀,2化は普通)
4/下~5/下および7/下~8/中

* 丹波

多紀郡篠山町竈坊温泉(I) 多紀郡篠山町曾地奥(I)

3. 観察事項

①発生状況

各種の花が咲き乱れる草原の中心部で、本種は他のセセリやヒョウモン類と混生するが、発生数はこれらの蝶に比べてかなり少なく、1~4頭が散見される程度であった。また、ホシチャバネセセリが好んで活動する草原の周辺部には全く見られず、この観察地で見る限り、両種の棲息域は大きく異なることが明らかとなった。

なお、同好者にも記録を求めて発生時期を推定しようとしたが、観察地におけるデータがあまりにも少なく、残念ながら今回は明確な答えを出すことができなかった。

②雄の占有行動

本種の雄は占有行動をとることが知られているが、観察地においても、活発な動きを見ることができた。この時の雄が好んだ環境は3タイプあり、1つは、周辺に比べて低くなったススキ草原の小枝の先端部で、2m以内に接近した同種雄の侵入に機敏に反応しては直ちに追飛行動をとる姿が見られた。このほか、草原の中で一段と突き出たススキの葉上を確保するケースや、さらには、草原の一部にシバやコザサなどの矮性植物が密生するエリアで、わずかに突き出たササの葉を占有する例など、それぞれにタイプの異なった環境で観察されている。

これら3タイプの地点は、いずれも本種の有効な見張り場所と考えられ、追飛を行った後もほぼ元の位置に舞い戻っていた。ためしに、占有中の雄をネットに収めて、他の雄がこの場所をキープするか否か調べた

ところ、先の2例については、共に、予想通り他の雄が占有を開始することが確認された。

以上より、雄が占有を好む場所は、周辺とは高さが幾分異なつて（高または低）見通しが良く、かつ付近に障害物の少ない、言わばスクランブル発進に好都合な環境だと推定される。

③活動と休息

この観察地において本種が活動を開始した時間は、好天微風の状態では概ね午前8時頃で、それまではスキの葉上に翅を閉じたまま動かずにいた（写真2）。その後の活動は午後5時前まで見られたが、日中の活動については未だ詳細に観察しておらず、今後の課題として残っている。

④訪花行動と植物

8時頃に目を覚ました本種は、飛翔を開始した直後にアザミの花を訪れ、吸蜜を開始していた。これをとらえたのが写真3である。本種の特徴となる長い口吻を伸ばして悠然と吸蜜している様子がうかがえる。

なお、この草原ではアザミに訪花する例が最も多く、他にオカトラノオ・ヒヨドリバナなどでも観察された。

2種の観察を終えて

前回と同様、観察地の記載は、郡名までに留めることにしたが、読者の中には、これでは報文としての価値を損なう、あるいはいささか見が狭い、と指摘される向きもあろう。しかしながら、本稿で述べた通り、これらの蝶は今や限られた地にわずかながら生息する種であり、いつ絶滅しても無理からぬ状況にある。したがって、この実態をお察し願うことで、大方の御了解は頂けるものと考えたい。

残念なことに、いつの世も蝶を愛好する人は多いのであるが、自然の中に共生する生き物として見る人は少ない。これは、蝶にとっては、存亡に係わる不幸で切実な問題である。しかしながら、些細な問題として片づける世の風潮にあっては、声高に叫ぶだけでは解決にならない。

但馬の自然環境がこの先ずっと安定し、これらの蝶だけでなく、そこに住まう生物全体の安住の棲み家として在り続けるよう、人の意識と行動が芽生えることを、切に願うものである。

最後に、日頃から何かとご意見を拝聴している広畑政己氏と近藤伸一氏に対し、誌面を借りて心より謝意

を表したい。なお、本稿をまとめるにあたり、広畑政己氏には貴重な資料を閲覧させて頂いたことも併せて報告しておきたい。

参考文献

ホシチャバナセセリ

- (A) 福田晴夫ほか (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (IV), 保育社: 220~223.
- (B) 広畑政己・近藤伸一 (1994) 兵庫県産蝶類分布資料, (6) 遊蟲千年 (姫路昆虫同好会): 1~12.
- (C) 蛭川憲男 (1990) 蝶類の配偶行動に関する調査資料, (8) 昆虫と自然24(12): 37~42.
- (D) 中村具見 (1991) 岡山県の蝶の分布, 昆虫と自然26(1): 2~11.
- (E) 栃木県の蝶類調査委員会・昆虫愛好会篇 (1975) 栃木県の蝶: 121.

ミヤマチャバナセセリ

- (F) 福田晴夫ほか (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (IV), 保育社: 269~274.
- (G) 山本広一 (1971) 兵庫県の蝶相, 月刊むし1971/6:3.
- (H) 日浦 勇 (1970) 日本列島の蝶, 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第2集: 200.
- (I) 大阪昆虫同好会 (1971) 北摂の昆虫(1) 蝶類: 57.
- (J) 大阪昆虫同好会 (1989) 北摂の蝶: 82.
- (K) 永幡嘉之 (1989) 三木市大村の昆虫類 I 蝶相, 釜城生物: 36.

2種共通の参考文献

- (L) 西村公夫 (1967) 播州高原の蝶類について, 兵庫生物 5(3/4):225.
- (M) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣 (1986) 但馬地域の蝶類目録, IRATSUME(10): 90~94.
- (N) 木下賢司・近藤伸一・大東康人・永幡嘉之 (1996) 但馬地域の蝶類目録II, IRATSUME(20): 80~81.
- (O) 大東康人 (1996) 但馬の蝶に関する若干の知見と推論—ヒヤドリギミ—, IRATSUME(20): 37~40.
- (P) 蝶研出版編集部 (1988) 蝶類年鑑1987. 蝶研出版
- (Q) 蝶研出版編集部 (1989) 蝶類年鑑1988. 蝶研出版
- (R) 蝶研出版編集部 (1990) 蝶類年鑑1989. 蝶研出版
- (S) 蝶研出版編集部 (1991) 蝶類年鑑1990. 蝶研出版
- (T) 蝶研出版編集部 (1992) 蝶類年鑑1991. 蝶研出版
- (U) 蝶研出版編集部 (1993) 蝶類年鑑1992. 蝶研出版
- (V) 蝶研出版編集部 (1994) 蝶類年鑑1993. 蝶研出版
- (W) 蝶研出版編集部 (1995) 蝶類年鑑1994. 蝶研出版

兵庫県八鹿町で採集した タマムシ数種の記録

佐藤 邦夫

筆者は、養父郡八鹿町岩崎（いわさい）の林道岩崎線で、数種のタマムシを採集したので報告する。

1. クロホシタマムシ *Ovalisia virgata* (Motschulsky)
1 ex., 1996-V-27; 1 ex., 1996-VI-1; 3 exs., 1996-VI-13; 10 exs., 1996-VI-15; 4 exs., 1996-VII-2

コナラ、アベマキの伐採木に飛来した。

動きはそれほど敏捷ではなく、見つけたものはほとんど採集できた。

但馬では谷角・足立（1985）により数箇所から記録されているように、低山帯に広く分布するようである。筆者も、未発表であるが美方郡村岡町相岡のコナラ伐採木で採集している。

2. マスダクロホシタマムシ *Ovalisia vivata* (Lewis)
1 ex., 1996-VI-15

ヒノキ切株のかかなり朽ちた部分に静止していた。

但馬では少ない種類のようなのであるが、天然林がスギやヒノキの人工林に変わっていく状況から、今後採集されることが多くなっていくと思われる。

3. オオムツボシタマムシ
Chrysobothris ohbayashii Y. Kurosawa
1 ex., 1996-V-27; 1 ex., 1996-VI-1; 7 exs., 1996-VI-13; 12 exs., 1996-VI-15; 1 ex., 1996-VII-2

コナラ、アベマキの伐採木に飛来したが、コナラのほうが断然多かった。

動きは敏捷で採集できたのは2割ほどである。

本種は、従来よりタマムシ科の稀種として知られていたが、近年各地で採集記録が報告されるようになった。筆者も、美方郡温泉町竹田での採集記録を報告した（佐藤，1988）が、いずれも、これほどたくさんの本種が発生している状況ではなかったと思う。今回の記録が一年限りのものか、継続的なものか興味あるところである。

4. ムツボシタマムシ
Chrysobothris succedanea E. Saunders

1 ex. 1996-VII-2

コナラ、アベマキの伐採木に飛来した。細い枝の部分に止まるので非常に採集しづらく、数も少ない。

5. クロナガタマムシ *Agrilus cyaneoniger* E. Saunders
1 ex., 1996-VI-13; 2 exs., 1996-VI-15; 1 ex., 1996-VII-2

コナラ、アベマキの太い切株に飛来した。数は多い。

すべて素手と帽子での採集であるが、すばやく動き回るオオムツボシタマムシも、コツがわかるとわりと採りやすくなった。

採集数の違いは、発生数の違いではなく、採集ポイント数の違いによるものであるが、7月2日のオオムツボシタマムシについては、明らかに発生の最後のようで、2頭しか見つからなかった。

最後に、IRATSUME定番のナガフトヒゲナガゾウムシをここでも採集したので報告しておく。

ナガフトヒゲナガゾウムシ
Xylina striatifrons (Jordan)

1 ♂ 1 ♀ 1996-VII-2

参考文献

- 谷角素彦・足立義弘（1985）クロホシタマムシの兵庫県における採集例，月刊むし178:25-26。
藤田 宏（1994）ヤノコモンタマムシ採集記，月刊むし281:7-8。
佐藤真矢（1994）オオムツボシタマムシの兵庫県における記録，月刊むし286:6。
斉藤琢巳（1996）神戸市内におけるタマムシ科2種の記録，月刊むし310:17。
佐藤邦夫（1988）温泉町でオオムツボシタマムシを採集，IRATSUME12:87-88。

IRATSUMEバックナンバー価格表 1997年

No. 1	絶版
No. 2～No. 7	但馬むしの会会員：各1100円 一般：各1400円
No. 8/9～No. 20	会員：各1300円 一般：各1600円

※ 8/9, 13/14, 15/16は合併号

いずれも送料300円を加算のこと

ご注文は但馬むしの会事務局まで

兵庫県中部における オオキイロコガネの採集記録

永橋 嘉之・秋田 勝己

オオキイロコガネ *Pollaplonyx flavidus* は、兵庫県ではこれまでに、市川町笠形山¹⁾、青垣町神楽・高源寺¹⁾、出石町¹⁾、出石町奥山茗荷谷³⁾、温泉町岸田肥前畑²⁾で各1～2頭が採集されているにすぎない。筆者らは、大河内町で採集された本種の標本を検しているので、分布記録として報告しておく。

1 ♀, 神崎郡大河内町長谷, 22-V-1990, 玉置高志採集

中型コガネムシ類の中では、著しく採集記録の少ない種である。県下の中北部のやや山間部の地域から、いずれも春季に得られている。隣接する鳥取県では平野部でも採集されており、これまでの採集記録をみる限りでは分布に特定の傾向は見出せない。

なお、標本は秋田が保管している。恵与いただいた玉置氏に厚く御礼申し上げる。

参考文献

- 1) 高橋寿郎 (1985) 兵庫県のコフキコガネ, IRATSUME 8/9 : 73-84.
- 2) 佐藤邦夫 (1988) 温泉町でオオキイロコガネを採集, IRATSUME12:82.
- 3) 足立義弘 (1992) オオキイロコガネの記録, IRATSUME15/16 : 45.

浜坂町における シロオビトリノフンダマシの観察例

日暮 卓志

シロオビトリノフンダマシ *Crytarachne nagasakiensis* Strandを浜坂町で観察しているので報告する。

3 exs., 兵庫県美方郡浜坂町諸寄塩谷, 27-VII-1992,
日暮卓志・阿武賢治観察

海岸部の斜面に広がるススキ野原で、午前9時くらいに観察した。当日は晴天で、本種はススキの葉裏に静止しており、日差しを避けているようであった。つついてみたが、非常に緩慢な動作で少し移動しただけであった。1993年7月23日にも調査をしたが、再発見することはできなかった。

観察のみで採集はしていないが、山本一幸氏より、但馬では1例しか記録が知られていないとご教示いただいたので、報告することにした。

参考文献

- 本庄四郎・山本一幸 (1990) 但馬のクモ類目録,
IRATSUME13:14:1-33.
新海栄一・高野伸二 (1984) 「フィールド図鑑 クモ」,
東海大学出版会。

連絡誌の情報を募集しています

連絡誌“混蟲ずかん”は年に数回発行されています。

“混蟲ずかん”では、誌面の充実を図るため、会員の皆さんから情報を募集しています。

メモ書き程度の通信でOKです。内容は、身近な虫の情報

(モンシロチョウの初見日、セミの初鳴き日・終鳴日など)、

採集情報、近況、意見、新刊紹介、新聞記事の切り抜きなど、何でも結構です。

随時、受け付けています。

とくに、但馬地方の昆虫に関する情報を求めています。

送付先・連絡先は、

事務局 (〒669-68 美方郡温泉町井土932-10 黒井和之) まで。

《IRATSUME 投稿規定》

1. 原稿は横書き原稿用紙に、わかりやすく書いてください。
2. 報文には「～である」調を用い、句読点もはっきりさせてください。
3. ワープロで原稿作成する場合は、句読点にピリオドとコンマを使用してください。また、印字したものとフロッピーディスクの両方をお送りください。
4. 種名は和名を主としますが、記録報告の場合には学名も表記してください。その際、学名は必要最小限にとどめてください。
5. 分類の紛らわしい種や貴重な記録には、標本写真を付けてください。標本撮影は編集事務局でも行えますので、ご利用ください。
6. 採集データは、次のような形式で記してください。
1♂2♀♀, 兵庫県美方郡温泉町青下, 1989-V-15, 黒井和之採集。
7. 参考文献は、次のような形式で記してください。
佐藤邦夫 (1987) 但馬地方のカミキリムシ, IRATSUME11:72-90。
8. 付図や表組は、そのまま使える完全版下として仕上げてください。IRATSUMEの誌面にうまく収まるよう工夫してください。
9. 原稿は十分に推敲・校正してから、ご投稿ください。とくに、わかりにくい表現や無駄な表現がないか、主語と述語がはっきりしているか、数字や学名のスペルに誤りがないかなどについて、チェックしてください。
10. 誤同定やデータに大きな誤りを含んでいる原稿は、掲載をお断りする場合があります。
11. 寄稿者は掲載誌3部を受け取り、原稿掲載料として1000円を事務局（郵便振替：01120-3-16245 但馬むしの会）に支払います。
12. 原稿についてのお問い合わせは、谷角素彦まで。

【編集後記】

◇まずは、5月に出版を予定していたIRATSUME21号の発行が遅れたことを、深くお詫びいたします。

今年は、阪神大震災の起きた1995年に匹敵するくらい、身のまわりでさまざまな出来事がありました。

まず、正月気分も抜け切らない1月に日本海で発生した、タンカーの重油流出事故。但馬地方の海岸部も被害をもろに受け、流れ着いた重油は自然界や人々の生活に重く暗い陰を落としました。海岸部の昆虫たちは、どうなったのでしょうか？ こんなとき、基礎となるデータをもっていない弱さを痛感します。せめて、その後の海岸部の昆虫相の動向を調べていくことが、われわれ地方同好会の役目ではないのでしょうか？

また、かつて当会会員で、近年は中国をフィールドに活躍していた北脇和光氏が亡くなったのも、衝撃でした。これをきっかけに、自分に残された“時間”をつよく意識するようになりました。

「そのうちに...」と思っていることは、そのほとんどが実現しない。忙しいなか、やって初めて形になる」これは、近ごろ痛感することです。“忙しい”を言い訳にしているうちは、まず駄目なのです。

あなたは、どんな虫屋人生を送っていますか？ 昆虫を採集して、標本箱を埋めていくのも楽しいけれど、それがすべてでしょうか？ 虫を楽しみつつ経験を重ね、データを基に世間に対しても適切な意見が言える。そんな“社会派”虫屋を目指すというのは、いかがでしょうか？ その第一歩として、身近な記録を埋めれさせず、IRATSUMEに発表してみてください。（谷角）

◇20号の編集後記を書いてから1年以上がたちました。この1年は個人的に激動の年でした。

何と言っても、昨夏の人事異動で、比較的時間を自由に使えた研究所から、本社営業本部へ転勤になったことです。長年住み慣れた長野から横浜へと、居住環境も変わりましたが、それ以上に、これまで職場で行えたIRATSUMEの編集作業が全くできず、すべて自宅で行わざるを得なくなりました。昨年までは深夜研究所に残り、谷角氏と電話でやりとりしながら最後の編集作業を行えたのですが...

ただし、今回の出版の遅れはそれとは関係ありません。あくまでも編集担当者の怠慢が第一の原因ですので、ご迷惑をおかけした皆様に深くお詫び申し上げます。

次号の原稿を募集いたしておりますが、今回のような遅れがでないよう、編集担当一同、心して当たります。ご投稿よろしくお願いします。（石田）

◇但馬を離れてから3年になります。但馬に通っていた頃は「地域」にこだわり、そこのカミキリムシだけをひたむきに追いかけていました。その後、国内各地や海外にも出かけるようになりましたが、場所や対象の虫は変わっても、興味をおぼえる事柄はあの頃とあまり変わっていないと思います。

但馬の虫に関しても、これまで私は本誌に、毎年の採集記録を羅列するという形で関わってきました。これからはそれらの記録をもとにいろいろ考えて、そしてやはり書き続けることができるよう努力したいと思います。IRATSUMEの蓄積をより活かすためにも。（永幡）

IRATSUME No.21

1997年11月15日発行

発行者：但馬むしの会

〒669-68 兵庫県美方郡温泉町

黒井和之方

編集者：谷角素彦・石田達也・永幡嘉之

但馬むしの会会則

1. この会は、但馬むしの会と称する。
2. この会は、但馬地方の昆虫研究（昆虫相の解明等），および会員相互の親睦をはかることを目的とする。
3. この会は、その目的を果たすために次のことをする。
 - (1) 会誌 IRATSUME（年1回）の発行
 - (2) 連絡誌 混蟲ずかん（年数回）の発行
 - (3) 採集会などの催し
4. この会は、昆虫に興味をもち、会の目的に賛同する人は誰でも入会できる。
5. 会員は、会を維持するため、年額（3000円）を負担しなければならない。
6. 会員は、会誌などの配布を受け、またこれに投稿することができる。ただし、会費滞納が2か年以上継続し、通知しても連絡のないときは自然退会とみなす。
7. この会を運営していくため、本部に事務局をおき、会の代表とする。
8. 総会は年1回とし、役員改選、会則の改正など、会の運営上の重要事項を審議する。議決は、出席者の過半数の賛成を必要とする。
9. この会の会計年度は、暦年とする。

